

日本社会心理学会
第 60 回大会プログラム

立正大学

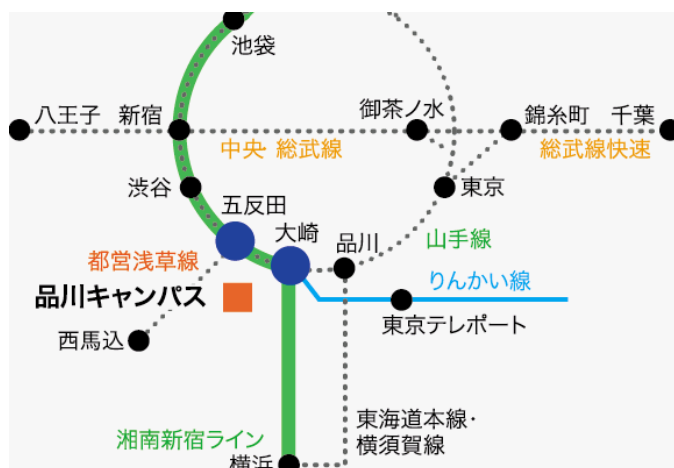
2019 年 11 月 9 日（土）・10 日（日）

大会会場への交通案内①

立正大学 品川キャンパス



- ・「大崎駅北改札西口」から徒歩 6 分
- ・「五反田駅西口」から徒歩 10 分
- ・「大崎広小路駅」から徒歩 3 分



立正大学品川キャンパスは、JR・りんかい線「大崎駅」、JR・都営浅草線「五反田駅」、東急池上線「大崎広小路駅」から徒歩でお越し下さい。

なお、大会期間中、大会参加者は「山手通り口」を利用できません。「正門」におまわりください。

東海道新幹線ご利用の場合：

品川駅で下車し、JR 山手線に乗り換え、大崎駅下車

航空機ご利用の場合

羽田空港から京浜急行線に乗り、品川駅で、JR 山手線に乗り換え、大崎駅下車、あるいは、
羽田空港—大崎駅西口間の空港連絡バス(<https://www.tokyubus.co.jp/airport/de-osaki.html>)

大会会場への交通案内②



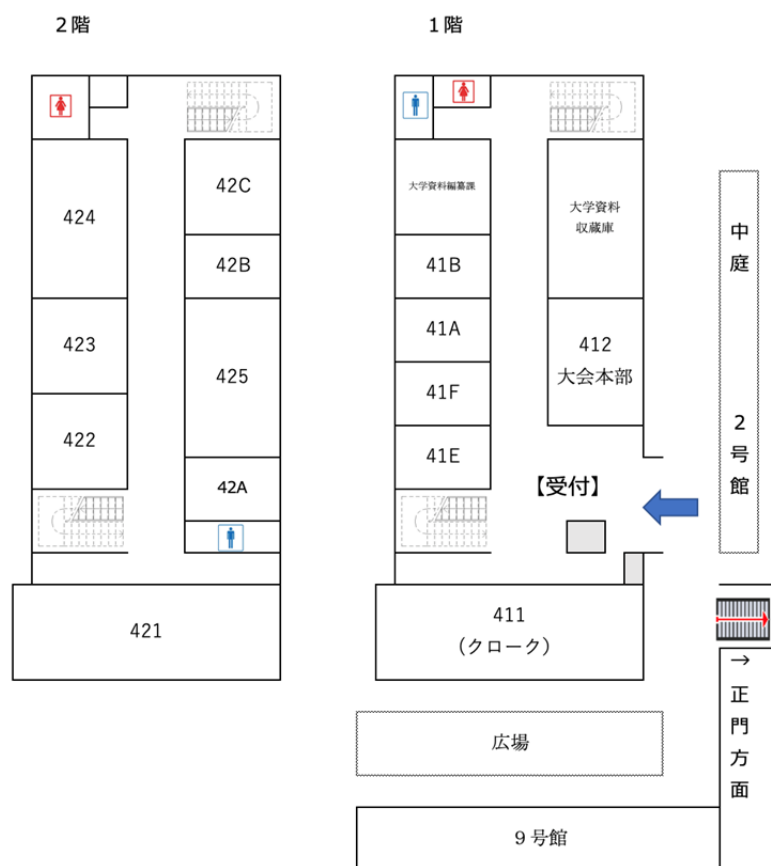
- ①「正門」をご利用ください。
- ②受付へお越しの方は、正門から階段をふたつ上り、中庭を経由し、4号館に移動してください。
- ③直接発表会場に向かわれる方は、正門から階段で1号館と2号館の間を通り、9号館に向かってください。
- ④口頭発表・WS 会場(9号館地下1階・地下2階)へは、1号館を回るように進んでください。
- ⑤ポスター発表会場・展示会場(9号館地上階)へは、階段を上り、広場を通り、地上階に向かってください。
- ⑥石橋湛山記念講堂は、正門から階段をひとつのぼり、直進してください。

【ご案内】 本大会で利用する学内施設については、原則「階段での移動」をお願いします。

お身体の不自由な方や介助を必要とされる方で、エレベータを利用希望の方は、事前に、大会準備委員会(jssp2019@ris.ac.jp)までご相談ください(移動が複雑なため、スタッフがご案内いたします)。

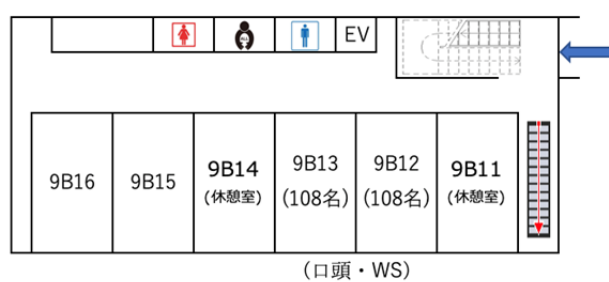
受付	4号館 1階ホール
クローク	4号館 411教室
口頭発表・WS	9号館 地下1階, 地下2階
ポスター発表	9号館 3階, 4階
シンポジウム	石橋湛山記念講堂
総会	石橋湛山記念講堂
休憩室	9号館 2階, 地下1階
書籍等展示	9号館 3階

4号館

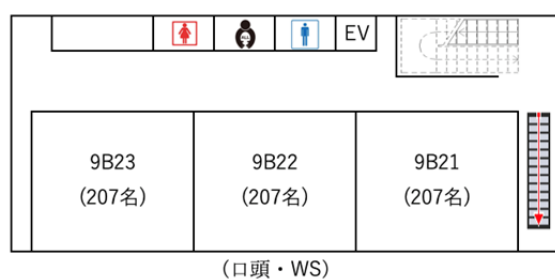


9号館地下

地下1階

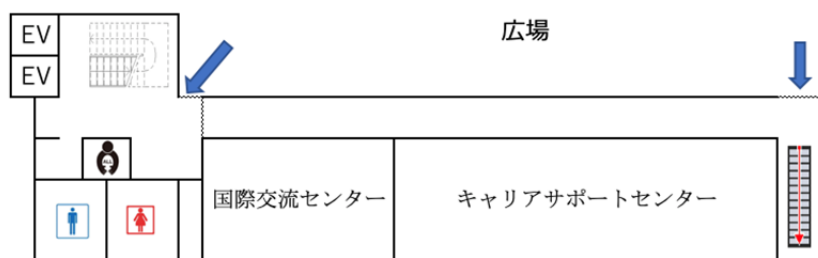


地下2階



9号館地上

1階



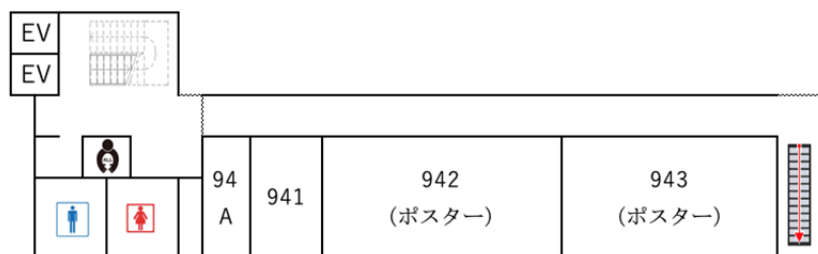
2階



3階



4階



大会に関するご案内

1. 受付

受付は、両日ともに 8 時 30 分から 4 号館 1 階ホールにて行います。予約参加の方は、プログラムに同封してある名札を必ずご持参いただき、受付付近で大会用ネームホルダーを受け取っていただければ、受付の必要はありません(名札を紛失された方は受付でその旨お申し出ください)。当日参加の方は、受付で参加申込用紙にご記入いただき、参加費をお支払いください。大会用ネームホルダーを受付付近にご用意いたしますので、ご自身で名札にお名前を記入してください。大会会場内では、名札を必ず着用してください。当日参加の名誉会員・臨時会員、賛助会員の方は受付にお越しください。

2. 諸費用

①大会参加費(当日)	正会員(一般)	8,000 円
	正会員(院生)	4,000 円
	準会員・学部学生(要学生証呈示)	2,000 円
	臨時会員	9,000 円
	名誉会員	無料
②論文集購入費(当日)		6,000 円

※名誉会員の方は、大会参加費・論文集購入費は無料です。

3. 総会・表彰式

1 日目の 15 時 15 分より、石橋湛山記念講堂にて開催します。

4. 研究発表・ワークショップ

口頭発表とワークショップは、9 号館 9B21, 9B22, 9B23, 9B12, 9B13 教室で行います。

ポスター発表は、9 号館 933,942,943 教室で行います。

5. 準備委員会企画シンポジウム

1 日目の 10 時 45 分より、石橋湛山記念講堂にて、準備委員会企画シンポジウムを開催します。講堂の定員を超過した場合は、9 号館 9B22 教室で遠隔システムで視聴できます。

6. クローク

クロークは、4号館1階411教室に設置します。お預かり時間は、1日目は8時30分から18時15分まで、2日目は8時30分から16時45分までです。必ず当日中にお引き取りください。貴重品やパソコンはお預かりできません。

7. 休憩室・書籍販売・機器展示

大会期間中は、休憩室を9号館9B11教室、9B14教室、921教室、922教室、923教室に、書籍販売・機器展示コーナーを9号館932教室にそれぞれ設けます。休憩室では飲み物と小菓子をご提供します。休憩室の開室は1日目は8時30分から18時まで、2日目は8時30分から16時30分までです。

8. 昼食・売店等

1日目・2日目ともに、昼食の提供はありません。立正大学品川キャンパス付近には飲食店が多数ありますので各自でおとりください。また、学内に販売施設はほとんどありませんので、近隣のコンビニエンスストアをご利用ください。

9. 喫煙場所

立正大学品川キャンパス内は、屋外に設置された喫煙スペース以外は全面禁煙となっています。指定場所以外での喫煙はご遠慮ください。

10. 託児サービス

大会期間中、月齢2ヶ月以上12歳(小学校6年生)までのお子様を対象とした託児所を設置します。時間は、1日目は8時30分～18時15分、2日目は8時30分～16時45分までを予定しています。場所は申込者に別途お知らせします。申込方法等は「託児のご案内」ページ、大会Webサイトをご参照ください。

11. 掲示板およびコミュニケーション・ボード

掲示板とコミュニケーション・ボードを、4号館1階ホール付近に設置します。大会本部からの連絡事項を掲示します。また、コミュニケーション・ボードには、研究に関する事柄であれば自由に掲示できます。

12. ソーシャルメディア利用についてのお願い

ソーシャルメディア(TwitterやFacebookなど)において、第三者が、研究発表の内容を録音・録画・撮影したり、中継・実況・報告等をオンラインで公開する場合は、たとえ用途が個人用であったとしても、事前に発表者の許可を得てください。また、発表者も、特にそれを抑制したい場合には、ご自身の態度の明示にご協力ください。参加者相互が気分を害することがないように、充分にご配慮ください。なお、本大会ではWi-fi環境は提供できません。

13. スタッフ・大会本部・緊急連絡先

スタッフは STAFF と書かれたネームホルダーを身につけております。ご用の際はお気軽にお声がけください。大会本部は、4 号館 412 教室に設けます。会場外からの緊急のご連絡は、jssp2019@ris.ac.jp までお願いいたします。

14. 常任理事会・理事会・編集委員会

大会前日の 11 月 8 日（金）に 4 号館 4 階 442 教室で開催されます。詳しくは各連絡用メーリングリストでご案内します。

学会賞選考委員会	12:00-13:00	4 号館 4 階 442 教室
編集委員会	13:00-14:00	〃
常任理事会	14:00-16:00	〃
理事会	16:00-18:00	〃

※理事用の控室として 4 号館 4 階 443 教室を用意しております。会議開始までの待機用にご利用ください。

なお、4 号館はバリアフリー設備がございません。階段での移動をお願いいたします。

発表者へのご案内

1. 口頭発表

受付と発表準備

発表者は可能な限りセッション開始 10 分前までにご来場ください。座長は全発表者の来場を確認してください。プレゼンテーションに備え付け PC をご利用の場合はデータをデスクトップ上にコピーしてください(セッション終了後すぐに準備委員会の責任において削除します)。ご自身の機器をご利用の場合は、必ずセッション開始前に接続確認をしてください。

発表成立の要件

(a)発表論文集への論文掲載, (b)当日の発表と討論への参加の両件を満たすことで、公式発表として認められます。当日の発表と討論は、責任発表者(プログラム中の○印)が行ってください。

機器

各会場にはプロジェクタとスクリーンが設置されています。ノート PC (OS: Windows10, Microsoft Office PowerPoint2013)を用意します。データは USB メモリでご持参ください。Mac や iPad 等の場合はお手持ちのものをお使いください(プロジェクタとの接続アダプタはご用意できません)。レーザーポインタもご準備します。

時間

口頭発表での 1 件あたりの持ち時間は 15 分で、発表時間 12 分、質疑応答 3 分です。時間厳守へのご協力をお願いします。発表中は、以下のとおり合図をします。

1 鈴: 10 分経過, 2 鈴: 12 分経過(発表終了), 3 鈴: 15 分経過(質疑応答終了)

配布資料

各自で必要と思われる部数をご準備の上、発表会場にご持参ください。会場付近にコピー機はありません。セッション開始前に配布資料を会場係にお渡しいただければ配布をお手伝いし、セッション開始後は会場出入口付近に置かせていただきます。

会場レイアウト

会場により、規模や座席配置等が異なります。会場案内平面図に収容定員など参考情報を記載しておりますのでご確認ください。

2. ポスター発表

受付

発表者は、セッション開始 5 分前までにポスター会場前の発表受付にお越し下さい。発表者用のネームプレートをお渡しします。受付は、各セッション開始 20 分前から開始します。

発表成立の要件

(a)発表論文集への論文掲載、(b)発表が割り当てられたセッションでの 90 分間のポスター掲示、(c)指定された 45 分間の在席、および、(d)質問者との個別討論への参加の 4 件を満たすことで、公式発表として認められます。当日の発表と討論は、責任発表者(プログラム中の○印)が行ってください。

掲示

ポスターは「縦 164cm×横 82cm」以内としてください。パネル上部に発表番号を掲示してありますので、所定の位置をご利用ください。画鋏はポスター会場にご用意します。ポスターの最上段には「題目」、「氏名」、「所属」を明記してください。

ポスターセッション間の時間間隔が短くなっていますので、セッション終了後は速やかに撤収し、次セッションの発表者との交代をスムーズに行ってください。両日ともに、最終セッション終了後、撤収されなかったポスターは会期終了後に大会準備委員会が廃棄します。

在席責任時間

1 つのセッションは 90 分です。在席責任時間は、発表番号(ポスター発表セッション番号に続く 2 桁の数字)が奇数の方はセッション開始 10 分後から 45 分間、偶数の方はセッション開始 35 分後から 45 分間です。

3. 連名発表者による代行と発表取消

責任発表者がやむを得ない事情により欠席する場合、準備委員会の事前の承認を得た上で、連名発表者が発表を代行することができます。承認を得ていない場合、公式発表として認められないことがあります。また、口頭発表において発表の取消があった場合、その後の発表スケジュールの繰り上げは行いません。座長の指示に従い、討論や休憩などの時間にあててください。代行や取り消しについては、早めに準備委員会までご連絡ください。

4. ワークショップ

時間

1 企画全体で 90 分とします。企画者や司会者のもとで自由に進行していただきます。終了時間は厳守してください。

機器

各会場にはプロジェクタとスクリーンが設置されています。ノート PC (OS: Windows10, Microsoft Office PowerPoint2013) を用意しますので、データは USB メモリでご持参ください。Mac や iPad 等の場合はお手持ちのものをお使いください(プロジェクタとの接続アダプタは用意できません)。レーザーポインタもご準備します。備え付け PC をご利用の場合はデータをデスクトップ上にコピーしていただいてもかまいません。セッション終了後すぐに準備委員会の責任において削除します。

配布資料

各自で必要部数をご準備の上、発表会場にご持参ください。ワークショップ開始前に会場係にお渡しいただければ配布をお手伝いし、ワークショップ開始後は会場出入口付近に置かせていただきます。

会場レイアウト

会場により異なります。会場案内平面図に収容定員や特徴を記載しております。

打ち合わせスペース

ワークショップの打ち合わせにご利用いただける部屋については、企画者に個別にご連絡いたします。複数のワークショップの共用となる場合もありますのでご了承ください。

5. ご連絡・お問い合わせ

大会準備委員会へのご連絡は、E-mail (jssp2019@ris.ac.jp) でお願ひします。大会開催中は大会本部(4 号館 412 教室)にお越しいただいても結構です。交通機関の遅延や事故等による不測の事態により、ご自身の研究発表セッションの開始予定時間に間に合わない可能性が生じた場合は、なるべく早くご連絡ください。

託児のご案内

大会期間中、月齢2ヶ月以上12歳(小学校6年生)までのお子様を対象とした託児室を設置します。託児室の利用を検討されている方は、以下をご覧になり、必要な情報を大会準備委員会まで電子メールでお知らせください。当日の要領など詳細については個別にご連絡させていただきます。ご質問なども遠慮なくお知らせください。

準備の都合上、お申し込みは 10月18日(金)までにお願ひします。この日までにご予定がはっきりしない場合はお早めにご相談ください。

1. 託児料

1日につき1,000円

2. 託児時間

両日ともに、プログラム開始30分前から終了15分後まで

1日目:8時30分～18時15分

2日目:8時30分～16時45分

※託児中のお食事・おやつの提供はできません(託児室への持ち込みも不可)

お食事の際、保護者様に一度お引き取りいただくことは可能です

3. 託児場所

立正大学品川キャンパス内(具体的な場所はお申し込みをいただいた方に別途お知らせします)

4. 託児委託先

株式会社ネス・コーポレーション<<https://www.ness-corporo.co.jp/>>

※なお、会社に直接連絡されても対応されませんので、必ず大会準備委員会を通してください

5. ご連絡いただきたい内容とご連絡先

- 1) 申込者とお子様の氏名(ふりがな)
- 2) お子様の大会時の年齢(3歳未満の場合は月齢まで)・性別
- 3) 託児予定日・時間
- 4) 緊急連絡先
- 5) アレルギーなど注意する必要があることがら

6. 申し込み先

大会準備委員会 jssp2019@ris.ac.jp

7. 申し込み締め切り

10月18日(金)

この日までに予定がはっきりしない場合は、その旨を早めにご相談ください。

備考

本サービス実施には日本社会心理学会の大会時託児室設置費補助金(20万円)を活用しています。

託児料は、大会における託児室設置(暫定)ガイドライン(2004年7月18日総会決定)に基づくものです。

第1日目 11月9日(土)

受付開始：8時30分（4号館1階ホール）

【会場】	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00

第2日目 11月10日(日)

受付開始：8時30分（4号館1階ホール）

【会場】	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	
9B21	口頭16 対人コミュニケーション4	口頭21 ストレス・不適応2	WS01 Society5.0の課題	WS06 ジェンダー					
9B22	口頭17 社会的認知2	口頭22 メディア	WS02 実験結果の再現可能性	WS07 マインドセット研究					
9B23	口頭18 集団2	口頭23 集団3	WS03 チーム力開発に向けて	WS08 欺瞞の被害					
9B12	口頭19 感情・動機2	口頭24 コミュニティ	WS04 回答過程と回答行動	WS09 統計モデリング					
9B13	口頭20 組織・産業1	口頭25 組織・産業2	WS05 「集団」を考える						
933	ポスター07 メディア	ポスター10 適応							
942	ポスター08 社会的態度	ポスター11 自己							
943	ポスター09 社会的認知1	ポスター12 社会的認知2							
932	書籍販売・機器展示								
9B11	休憩室								
9B14									
921									
922									
923									

愛と正義と暴力と：過激主義の社会心理学

企画者： 日本社会心理学会第60回大会準備委員会

司会者： 西田 公昭（立正大学）

話題提供者： 西田 公昭（立正大学）

松井 豊（筑波大学）

縄田 健悟（福岡大学）

指定討論者： 唐沢 穰（名古屋大学）

概要

オウム真理教に関わる事件のすべての裁判が終結し、死刑執行を含む重い刑罰が執行されている。一般に弁護士一家殺人、毒ガス兵器を用いたテロ的な暴力は、未曾有の出来事であったとみなされるが、この集団の過激な活動を、社会心理学はどう理解して、意味づけたのだろうか。日本では、この一連の事件から20数年過ぎる中、オウム真理教がいかなる集団であったかをあらためて説明しないと知らない世代も多くなってきた。しかし現代世界を見れば、宗教などの思想に基づく同類の過激な集団活動は偏在して見られる現象であり、歴史的にも繰り返されてきた。社会心理学は、その心理を説明し、予測する責務を負って発展してきた経緯があることは、多くの方々に知られている事実である。

そこで本企画では、愛や正義という名に潜む、イデオロギーや思想とその偏見的理解と過激化との関係を現在の海外事例などを敷衍しながら検討していく。はじめに3名の先生からご講演いただき、それぞれのご講演の論点や要点を指定討論の先生に小括していただく。そして最後に、過激な思想集団をどのように位置づけて研究することが、社会の未来に貢献する社会心理学の理論的發展につながるのかを議論したい。

なお、本シンポジウムは「令和元年度立正大学心理学部公開講座」（立正大学心理学部・品川区）との共催形式で行われます。

西田 公昭 氏 「オウムやISのカリスマ的支配における過激な行動原理」

松井 豊 氏 「サリンによるテロ被害の悲惨さ」

縄田 健悟 氏 「テロリズムの社会心理学の現状と課題」

唐沢 穰 氏 「イデオロギーと過激化の集団過程」（指定討論）

Society5.0の課題と社会心理学の貢献

企画者： 唐沢 かおり（東京大学）

司会者： 唐沢 かおり（東京大学）

話題提供者： 田井 光春（日立製作所・日立東大ラボ 非会員）

工藤 泰幸（日立製作所・日立京大ラボ 非会員）

指定討論者： 浦 光博（追手門学院大学）

概要

Society 5.0 は「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」とされ（内閣府 HP）、国が目指すべき未来社会として第五期科学技術基本計画にも盛り込まれている。産官学の連携のもと、様々なプロジェクトが IoT、AI といった技術主導により展開している一方、人の行動を技術により制御することや、そこに組み込まれる社会規範、道徳的価値についての問題提起がなされているのが現状であろう。そのようななか、社会的な人の特性を踏まえたうえで、規範的・道徳的観点からの議論にも耐えうる設計と実装がなされなければ、「人間中心の社会」を実現することは不可能だという認識が、工学者・技術者側からも提出されている。

では、このような問題提起に対して、社会における人の行動のありかたと関連要因のみならず、規範の形成・維持や道徳を支える心の仕組みを探求してきた社会心理学は、何をなしうるのだろうか。科学知のみならず、実践知・人文知として、蓄積してきた知見と考察を生かす道はどこにあるのだろうか。本ワークショップは、これらの点への議論を深めることを目的として企画したものである。

ワークショップでは、日立東大ラボの田井氏に、Society5.0 という構想の概略と、そのポイントであるデータ駆動型社会にかかわる技術の現状、さらには、ラボで進めておられる具体的なプロジェクトに即して、市民主体のデータ活用や社会的信用にかかわる問題、技術者側が連携を期待することなどをお話しいただく。次いで、日立京大ラボの工藤氏に、IT 技術による社会的ジレンマ研究のメタ分析研究の概要と、それに基づいた予後予想と行動介入プログラムの構想を示していただき、社会心理学の実証的知見の役割や、IT システムによる社会介入の規範的問題を論じていただく。最後に、追手門学院大学の浦氏に、社会心理学者として、Society5.0 というフィールドをどのように理解し、工学をはじめとする他領域との連携に取り組んでいくことが可能なのか、「Society 5.0」という視座が社会心理学の既存パラダイムに対してどのような変革を迫るのかなどを中心に議論していただく。

その後、時間の許す限り、フロアの方々と共に、Society5.0 の課題や問題点、またより望ましい未来に向けて社会心理学が背負う責任と果たすべき貢献の可能性について、認識を交換したい。

社会心理学における実験結果の再現可能性(2) :

5年間の実践の歩み

企画者・話題提供者： 平石 界 (慶應義塾大学)

三浦 麻子 (大阪大学)

樋口 匡貴 (上智大学)

藤島 喜嗣 (昭和女子大学)

概要

日本心理学会第79回大会(2014年度)において「社会心理学における実験結果の再現可能性」と題する自主企画ワークショップを開催してから5年が経過した。この間、主要雑誌に掲載された100研究の組織的追試における低い再現率($<.5$)が報告され(OSC, 2015)、並行して低い再現率の「犯人探し」が行われ、様々な「問題のある研究慣習」が指摘され(藤島・樋口, 2016, 心理学評論)、「治療」のための研究計画の事前登録制度、直接的追試の実施が提案されてきた(池田・平石, 2016, 心理学評論)。その結果、自我消耗、顔面フィードバック仮説、特性プライミング、目の画像による向社会性の向上など、専門書や教科書はもちろん、一般メディアでも紹介され、消費されてきた効果の頑健性に疑問を投げかけるメタ分析や追試が続々と報告されるに至った。一方で、それら否定的な報告へ反論するメタ分析や追試も行われるなど、活発な議論が行われている。本ワークショップでは、こうした5年間の動きを踏まえつつ、知見の再現可能性(replicability)を確認、向上させる事前登録制度(pre-registration)と直接的追試(direct replication)を実施する上での問題点とそれへの対応、そして今後の展開について、参加者と議論し、できれば共同研究のきっかけとしたい。議論の呼び水として以下の話題を提供する予定である。

1. 複数ラボ共同による直接的追試。追試において十分な検定力を確保するために求められるサンプルサイズは非常に大きなものとなりがちである。この問題に複数ラボでの共同実験によって対応したプロジェクトを紹介する(藤島)。
2. 追試研究と心理学教育のコラボレーション。追試研究を学部教育プログラムに組み込むことで、教育と研究との相乗効果を目指す試みについて報告する(樋口)。
3. 事前審査つき追試の審査・刊行プロセス。データ取得前の研究計画を審査することで公刊バイアスを避ける事前審査制度の実際と問題点について、エディターとして関わっている立場から報告する(三浦)。
4. ワークショップ企画メンバーによる科研費プロジェクトで計画中のメタ分析ならびに追試研究について紹介する(平石)。

チーム力開発に向けての社会心理学的アプローチ

企画者： 山口 裕幸（九州大学）

司会者： 山口 裕幸（九州大学）

話題提供者： 山口 裕幸（九州大学）

池田 浩（九州大学）

縄田 健悟（福岡大学）

指定討論者： 中村 和彦（南山大学）

概要

チームで目標を達成し成果をあげるには、個々のメンバーの力量はもちろんのこと、それらを統合し、ひとつにまとめあげていく集団過程のありようが、重要な役割を担っている。チーム力を育み、高めていく取り組みは、チームの集団過程に働きかける、優れて社会心理学的なアプローチに基づくものである。

本ワークショップは、実際にチーム活動を行っている現場を研究対象としながら、理論と実践を往復して取り組むアクション・リサーチの視点から、チーム力開発を目指して行っている研究の内容とこれまでの成果を報告する。そして、組織開発の専門家からの批判・助言をいただくことで、実践に生かす社会心理学の研究アプローチについて議論を深めることを企図している。

報告される話題ならびに指定討論は以下の予定である。

【話題提供】

- ① 山口裕幸 「組織現場におけるチーム力開発の進め方とその効果性検証の方法論」
- ② 縄田健悟 「チーム力開発の効果性の測定技法とデータ解析の工夫」
- ③ 池田 浩 「技術者チームにおける感謝カードの導入とその効果」

【指定討論】

- ④ 中村和彦 「組織開発の見地から捉えたチーム力開発プログラムの利点・弱点」

回答過程と回答行動の研究：質問紙法・調査法の改善をめざして

企画者： 木村 邦博（東北大学）

司会者： 木村 邦博（東北大学）

話題提供者： 増田 真也（慶應義塾大学）

山田 一成（東洋大学）

指定討論者： 田崎 勝也（青山学院大学）

広田 すみれ（東京都市大学）

概要

質問紙調査やWeb調査などで得られるデータの質に問題があり、測定の妥当性や信頼性が損なわれているのではないかという問題が指摘されてきた。回答の質を上げるためにはどのような調査設計にすればよいか、回答過程と回答行動に関する実証研究の中から考えていく必要があるだろう。

このワークショップでは、回答の質に影響を与える要因として特に質問回答形式や測定ツールなどを含めた環境要因・状況要因に注目しつつ、動機づけや認知スキルなどの個人特性との交互作用効果も考慮に入れながら、具体的な提言につなげていきたいと考えている。話題提供者からは、複数の回答形式に対する反応を「回答者にとっての課題の難しさ」という観点から考察することで「深い情報処理」にもとづいた回答を引き出せる項目を探る研究と、Web調査で利用可能となった新しいデータ収集技法の有効利用に関する研究を紹介していただく予定である。

これらの研究の報告をもとに、潜在変数モデルやパラデータを利用した回答スタイルの測定方法、国際比較への展開、回答者に対する配慮を重視した新たな測定ツールの可能性などに関する議論を深めたい。さらに、質問紙法・調査法の改善をめざす研究において想定すべき回答者像や回答過程モデルについても、参加者の皆さんとともに検討していく契機となれればと考えている。

「集団」を考える:**視覚科学・数理生態学・情報学・社会心理学の挑戦**

企画者・司会者: 竹村 幸祐(滋賀大学)

話題提供者: 齋木 潤(京都大学・非会員)

濱田 大佐(京都大学・非会員)

阪上 雅昭(京都大学・非会員)

竹村 幸祐(滋賀大学)

指定討論者: 鹿内 学((株) シンギュレイト・非会員)

概要

「集団」という言葉を、社会心理学のジャーナルや会合で目にしないことはない。本ワークショップでは、この「社会心理学のお家芸」的テーマに、視覚科学者・数理生態学者・情報学者を招く。

集団は複数の個体からなり、相互作用を介して創発が生じ得る——この現象に注目するのは社会心理学者だけでなく、他領域の研究者も然りであった。このことは、例えば、wisdom of crowds 現象をめぐる、広範な分野で研究が進められ、Nature、Science、PNAS などトップジャーナルにも多くの研究論文が掲載されていることから明らかである。従って、「集団」は社会心理学の「お家芸」でありながら、「専売特許」ではない。本ワークショップでは、集団意思決定およびその関連テーマについて、「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」の「領域開拓プログラム」として2017年度からスタートした学際プロジェクト「創発的知性としての『群衆の智慧』: 集団意思決定による社会と個人の変容」(研究代表者: 齋木潤)のこれまでの研究成果を紹介する。

まず齋木(視覚科学)から、プロジェクトの全体像を紹介する。ここでは、社会心理学・視覚科学・数理生態学・情報学の協働によってどのようなブレイクスルーが期待されるかを論じる。次に、濱田(視覚科学)から、ランク付け課題を個人および集団の場合でそれぞれ回答させたデータを用いて、群衆の智慧と合議の効果を比較した研究について発表する。阪上(数理生態学)は、ある企業のSlackでのチャットデータの解析による、発話の統計的性質やグループ内のコミュニケーションの可視化に関する研究発表を行う。竹村(社会心理学)は、約40社の調査データをマルチレベル分析で解析した結果を発表する。特に、個々人(従業員)の特性に還元できない文脈効果についての知見を報告する。最後に指定討論者として、鹿内(情報学・実務家)から、企業組織にとってどのようなインプリケーションを持つかを中心に、各研究へのコメントを述べる。

企業組織におけるジェンダー・アンコンシャス・バイアスへの 取組みについて考える

企画者・司会者：潮村 公弘（フェリス女学院大学）

話題提供者： 佐々木 裕子（(株) チェンジウェーブ・非会員）

潮村 公弘（フェリス女学院大学）

野村 浩子（淑徳大学・非会員）

川崎 昌（目白大学・非会員）

指定討論者： 石井 国雄（清泉女学院大学）

指定討論者： 外島 裕（日本大学・非会員）

概要

ダイバーシティ推進の障壁となっているアンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)への注目が日本社会においても高まってきている。大学組織においてもさまざまな取組みが提唱されてきているが、企業組織における取組みが先行しているようである。本企画ワークショップでは、ジェンダーの問題を中心として、企業組織におけるダイバーシティ(多様性の尊重)の推進に直接的にかかわるリサーチをもとに、企業組織におけるジェンダー・アンコンシャス・バイアスへの取組みについて考えていきたい。本企画ワークショップでは、2つのリサーチを中心としてワークショップを進めていく。1つめは、株式会社チェンジウェーブが“アンコンシャス・バイアスレベルの可視化”とアンコンシャス・バイアスへの“理解”と“コントロールの手法を学ぶ”ためのツールとして、2018年5月にローンチしたツールである「ANGLE」(特許出願中)について取り上げる。「ANGLE」は、マネジメント層を対象とした e-learning ツールであり、ローンチ後1年間ほどで、約3000名のマネジメント層の方々へのツール提供を進めてきている。まず、チェンジウェーブ社の佐々木氏より「企業からのANGLEへのニーズ」について、また「ANGLE」の監修を担当した潮村氏より「ローンチ後1年間のデータから見えること」について話題提供を行う。2つめのリサーチは、「組織リーダーの望ましさとジェンダー・バイアスの関係」について、日本の大手企業25社の約2500名に対する意識調査を行ったリサーチについて取り上げる。野村氏から「調査の概要と主な結果」について、また川崎氏からは「調査結果の詳細」について話題提供を行う。また指定討論者として、石井氏より社会的認知研究の枠組みから、また外島氏より企業組織のパースペクティブから指定討論を行っていただく。これらの話題提供と指定討論をもとに、フロアーの方々とともに、日本社会におけるジェンダー・アンコンシャス・バイアスへの取組みについて考えていきたい。

マインドセット研究の最前線：

マインドセット効果とその社会的意義を議論する

企画者： 竹橋 洋毅（奈良女子大学）・尾崎 由佳（東洋大学）・
高 史明（神奈川大学）・雨宮 有里（東洋大学）

話題提供者： 大久保 慧悟（東洋大学・ディップ（株））
植阪 友理（東京大学・非会員）
稲垣 勉（鹿児島大学）

指定討論者： 村田 光二（成城大学）

概要

私たちは勉強、仕事、人間関係などで困難に直面する。健やかな心を守りつつ、困難を乗り越えることを可能とする心理の解明は重要である。この問題意識から、マインドセットという概念への関心が高まっている。マインドセットとは事物についての信念であり、情報を系統立てて解釈する枠組みとして働き、状況への認識や反応のしかたに影響を及ぼす(Crum, Salovey, & Achor, 2013)。例えば、ストレスの影響（有害 vs. 有益）に関するマインドセットは、ストレスサーやコーピングとは独立に、精神健康を向上する(Crum et al., 2013)。また、知能を成長可能とみなす増大的マインドセットをもつ人々は、生得的とみなす人々よりも、困難への無力感を経験しにくい (Dweck, 2011)。マインドセットは介入によって低コストで変容させることが可能であり、精神健康や動機づけの改善が期待できることが示されている。

一方で、近年ではマインドセットに関する一般書が多く出版され、その中にはマインドセットが「万能薬」であるような印象を抱かせるものもある。教育政策においてもマインドセットの有用性は注目されており (e.g., 4次元の教育フレームワーク)、米国では増大的マインドセットを高める教育実践が普及しつつある。しかしながら、マインドセット効果についてのメタ分析では学力改善への効果が限定的であるという報告もある (Sisk, Burgoyne, Sun, Butler, & Macnamara, 2018)。したがって、マインドセットの効果が①どのような人々に、②どのような意味で有益なのかについて実証的な検証が必要であるといえる。

本ワークショップでは、マインドセットが「どのような意味」で有用であるかを議論したいと考えている。大久保氏からは、「困難を乗り越える上でのマインドセットの働き」について話題提供をいただく。植阪氏からは、「学習上のつまづきを信念レベルから克服する一学習観や学習方略に着目した支援のあり方」について話題提供いただく。稲垣氏からは、「潜在的測定法を用いたマインドセットの測定」について話題提供いただく。その後、村田氏から指定討論をいただいた上で、フロアを交えた議論をしたい。マインドセット研究の知見が社会に「どう意味づけられるか」について関心をむけ、議論を深める場になれば幸いである。

欺瞞の被害と社会心理学：行政機関とのコラボ展開に期待

企画者： 西田 公昭（立正大学）

話題提供者： 島田 貴仁（科学警察研究所）

齊藤 和範（科学警察研究所・非会員）

岩田 光将（愛知県庁・非会員）

田中 陽子（香川県庁・非会員）

小林 清香（消費者庁・非会員）

指定討論者： 秋山 学（神戸学院大学）

概要

詐欺や悪質商法の被害が大きな社会問題として注目されるようになって久しい。そして、その被害者の心理過程は社会心理学のコミュニケーション論や社会的影響過程の文脈で概して説明できる現象であると考えられている。しかしながら犯罪心理学や消費者保護の心理学に従事してその検討を詳細に行い、行政的な施策に有効利用してもらいながら現象の理論化を目指すというような研究はあまりなかったと思われる。ようやく最近になって、警察庁は詐欺の被害に対して心理学的な検討をするため、また消費者庁は、若者の消費者被害の心理的要因を検討するため、被害者や仕掛けに看破した人々を対象にした量的調査を実施した。

この WS では、それらの研究の一端を紹介しながら、この問題において、今後、どのような研究が必要となってくるのか、そして社会心理学的アプローチをどのように展開していくことが期待されるのか、また行政機関との連携がもたらす意義を考えたい。

社会心理学における統計モデリングの可能性

企画者： 清水 裕士（関西学院大学）・平川 真（広島大学）

話題提供者： 稲増 一憲（関西学院大学）

平川 真（広島大学）

清水 裕士（関西学院大学）

指定討論者： 池田 功毅（中京大学）

片平 健太郎（名古屋大学・非会員）

概要

心理学において、統計モデリングが注目されている。社会心理学会でも第4回方法論セミナー「効果の科学からデータ生成過程の科学へ～心理学者のためのベイジアン・モデリング入門」において統計モデリングの重要性が語られ、また心理学評論の特集号「統計革命」でも、ベイズ統計モデリングの可能性が議論されている。

一方で、これまでは統計モデリングの事例として用いられるのは、認知心理学的な研究であることが多かった。よって、いまだ社会心理学者にとって、統計モデリングが社会心理学の研究に対してどのような利点があるのかが、つかめていないかもしれない。

そこで本ワークショップでは、社会心理学者が、社会心理学的リサーチクエスションに答えるための統計モデリングの研究を紹介し、社会心理学においていかなる利点があるのかについて議論をしたい。

まず稲増一憲氏には、代表性のある大規模な調査の二次分析の事例をとりあげていただく。2つの調査を比較したいとき、同じ変数が含まれていても反応ラベルが異なっていれば平均値は比較することができない。そこで統計モデリングを用いて、平均値を比較可能にした研究を紹介してもらう。次に平川は、心理測定を目的に計算論モデルを用いる研究事例を報告する。社会心理学実験における行動データに強化学習の一種であるQ学習モデルを適用し、そこで推定されたパラメータと他の変数との関連を検討している。続いて清水は、報酬分配における社会的価値志向性（SVO）のモデルをとりあげる。最初に階層モデルによってパラメータを推定する方法、次にオリジナルな数理モデルを導出しデータによって検証した研究を紹介する。

最後に、中京大学の池田功毅氏と、名古屋大学の片平健太郎氏に、社会心理学におけるモデリング研究の可能性、そして統計モデリングにおける注意点なども踏まえて指定討論を行っていただく。

O01 口頭発表

第1日（11月9日） 9:30～10:30

9号館地下2階 9B21

文化・社会1

座長 膳場 百合子

- | | | | |
|-------|--|---|--|
| O0101 | 9:30～9:45
「冷たい日本人」と「お節介なアメリカ人」？
見知らぬ他者への援助行動の文化比較 | ○新谷 優
Caitie Handron
Hazel Markus | 法政大学
Stanford University
Stanford University |
| O0102 | 9:45～10:00
AIがもたらした結果に対する責任判断
日本人とアメリカ人の比較 | ○膳場 百合子
Maia Young | 早稲田大学
カリフォルニア大学アーバイン校 |
| O0103 | 10:00～10:15
ポジティブ共感の文化差とその要因
—社会生態心理学による関係流動性の効果の検討— | ○奥山 新斗
結城 雅樹 | 北海道大学
北海道大学 |

O02 口頭発表

第1日 (11月9日) 9:30 ~ 10:30

9号館地下2階 9B22

文化・社会2

座長 小林 哲郎

- | | | | |
|-------|---|---|--|
| O0201 | 9:30 ~ 9:45
党派的な選択的接触の一般化可能性
日本・香港・アメリカの比較研究 | ○小林 哲郎 | 香港城市大学 |
| O0202 | 9:45 ~ 10:00
説得納得ゲームの効果の国際比較 | ○安藤 香織
杉浦 淳吉
大沼 進
Kim-Pong Tam
Gundula Hübner
安達 菜穂子 | 奈良女子大学
慶應義塾大学
北海道大学
香港科技大学
Martin-Luther-University Halle-Wittenberg
大阪市立大学 |
| O0203 | 10:00 ~ 10:15
Galton問題に対する統計モデリングアプローチ
集団主義と病原菌ストレスの関係を例に | ○清水 裕士
竹村 幸祐 | 関西学院大学
滋賀大学 |

O03 口頭発表

第1日 (11月9日) 9:30 ~ 10:30

9号館地下2階 9B23

対人コミュニケーション1

座長 片桐 恵子

- | | | | |
|-------|---|--------------------------|----------------------|
| O0301 | 9:30 ~ 9:45
道徳的信念の共有は自動運転自動車への信頼を高めるのか | ○横井 良典
中谷内 一也 | 同志社大学
同志社大学 |
| O0302 | 9:45 ~ 10:00
勤勉因子を新たに含む道徳因子モデルの再検討 | ○山縣 芽生
綿村 英一郎
寺口 司 | 大阪大学
大阪大学
大阪大学 |
| O0303 | 10:00 ~ 10:15
人々はなぜクラウドファンディングをするのか | ○片桐 恵子
木村 拓真 | 神戸大学
神戸大学 |

O04 口頭発表

第1日 (11月9日) 9:30 ~ 10:30

9号館地下1階 9B12

ライフスタイル

座長 吉良 文夫

- | | | | |
|-------|---|-------------------------|--|
| O0401 | 9:30 ~ 9:45
ケータイ・スマホ利用のライフスタイル研究 (1)
—ながら使用者のライフスタイル特性— | ○吉良 文夫
飽戸 弘 | NTTドコモ モバイル社会研究所
東京大学 |
| O0402 | 9:45 ~ 10:00
ケータイ・スマホ利用のライフスタイル研究 (2)
デマンド交通意向者のライフスタイル特性 | ○水野 一成
飽戸 弘 | NTTドコモ モバイル社会研究所
東京大学 |
| O0403 | 10:00 ~ 10:15
ケータイ・スマホ利用のライフスタイル研究 (3)
小中学生のICT利用のライフスタイル特性 | ○栗原 俊介
吉良 文夫
飽戸 弘 | NTTドコモ モバイル社会研究所
NTTドコモ モバイル社会研究所
東京大学 |

O05 口頭発表

第1日 (11月9日) 9:30 ~ 10:30

9号館地下1階 9B13

対人コミュニケーション2

座長 高岸 治人

O0501	9:30 ~ 9:45 対人関係におけるオキシトシンの役割 (1) 一般的信頼と社会的用心との関連	○寿 秋露 山田 順子 仁科 国之 松永 昌宏 高岸 治人	玉川大学 玉川大学 高知工科大学 愛知医科大学 玉川大学
O0502	9:45 ~ 10:00 対人関係におけるオキシトシンの役割 (2) 社会的ネットワークとの関連	○山田 順子 寿 秋露 仁科 国之 松永 昌宏 高岸 治人	玉川大学 玉川大学 高知工科大学 愛知医科大学 玉川大学
O0503	10:00 ~ 10:15 唾液中オキシトシン濃度と関連する安静時機能的結合	○高岸 治人 寿 秋露 山田 順子 松永 昌宏 田中 大貴 松田 哲也	玉川大学 玉川大学 玉川大学 愛知医科大学 玉川大学 玉川大学

O06 口頭発表

第1日 (11月9日) 14:00 ~ 15:00

9号館地下2階 9B21

文化・社会3

座長 石井 辰典

- | | | | |
|-------|--|---|--|
| O0601 | 14:00 ~ 14:15
文化適応が日本式モラル価値観に与える影響
日本の大学に在学する留学生を対象として | ○高松 礼奈
May Cho Min
Wenzhen Xu
Lina Wang
高井 次郎 | 神戸学院大学
Yangon University of Education
KDDI 総合研究所
名古屋大学
名古屋大学 |
| O0602 | 14:15 ~ 14:30
宗教的信念と文化伝達：
International Social Survey Programme データによる
Gervais & Najle (2015) の事前登録済み追試 | ○石井 辰典
渡邊 克巳 | 早稲田大学
早稲田大学 |
| O0603 | 14:30 ~ 14:45
適応論的視点にもとづく「協調性」の分析
社会レベルでの排除回避と調和追求および個人主義-
集団主義の相関 | ○橋本 博文
山岸 俊男
James H. Liu | 安田女子大学
一橋大学
Massey University |

O07 口頭発表

第1日 (11月9日)

14:00 ~ 15:00

9号館地下2階 9B22

社会的認知1

座長 北村 英哉

- | | | | |
|-------|--|-----------------|-------------------|
| O0701 | 14:00 ~ 14:15
柔らかいものに触れていることによって生じる期待の増加は社会的文脈に特有なのか？
—Cyberball 課題を用いた検討— | ○池田 利基
武田 裕司 | 筑波大学
産業技術総合研究所 |
| O0702 | 14:15 ~ 14:30
清浄志向／ケガレ忌避傾向とケガレ関連刺激への潜在態度との関連
— AMPを用いた検討— | ○北村 英哉
松尾 朗子 | 東洋大学
名古屋大学 |
| O0703 | 14:30 ~ 14:45
社会的排斥の目撃者における罪悪感および共感性と被排斥者への援助行動意図との関連 | ○津村 健太 | 帝京大学 |

O08 口頭発表

第1日 (11月9日)

14:00 ~ 15:00

9号館地下2階 9B23

ストレス・不適応1

座長 金政 祐司

- | | | | |
|-------|--|---|--|
| O0801 | 14:00 ~ 14:15
消防職員配偶者が抱えるストレスの検討 | ○秋本 陽子 | 筑波大学・東京消防庁 |
| O0802 | 14:15 ~ 14:30
学生の主観的ソーシャル・キャピタルと精神的不健康の関連：
3年間の縦断調査による検討 | ○芳賀 道匡
笹川 修
小平 英志
中村 信次
山崎 喜比古
近藤 克則 | 日本大学
日本福祉大学
日本福祉大学
日本福祉大学
日本福祉大学
千葉大学 |
| O0803 | 14:30 ~ 14:45
愛着不安ならびにDTが夫婦間の間接的暴力に及ぼす影響
～夫婦ペア縦断調査からの検討～ | ○金政 祐司
古村 健太郎
浅野 良輔 | 追手門学院大学
弘前大学
久留米大学 |

O09 口頭発表

第1日 (11月9日)

14:00 ~ 15:00

9号館地下1階 9B12

社会問題

座長 青木 俊明

- | | | | |
|-------|--|-----------------|--------------|
| O0901 | 14:00 ~ 14:15
公共政策の合意形成における謝意表明の効果 | ○菅原 優花
青木 俊明 | 東北大学
東北大学 |
| O0902 | 14:15 ~ 14:30
NIMBY施設の社会的合意形成における可逆性導入の効果
フランスのHLW廃棄物処分場を題材に | ○青木 俊明 | 東北大学 |
| O0903 | 14:30 ~ 14:45
Dark Triadと怒りの反すう傾向がユーモア表出形態およびシャーデンフロイデ喚起に与える影響 | ○板山 昂 | 関西国際大学 |

O10 口頭発表

第1日(11月9日)

14:00～15:00

9号館地下1階 9B13

対人コミュニケーション3

座長 田中 知恵

- | | | | |
|-------|--|------------------|----------------|
| O1001 | 14:00～14:15
グループに対する発言はいつ聞き手の態度に影響されるのか
聞き手集団の実体性が聞き手チューニングにおよぼす影響 | ○梁 庭昌
相馬 敏彦 | 広島大学
広島大学 |
| O1002 | 14:15～14:30
送り手の集団成員性が受け手の感情共有や結びつきの知覚に及ぼす影響 | ○田中 知恵
小森 めぐみ | 明治学院大学
淑徳大学 |
| O1003 | 14:30～14:45
長所の開示とその会話時間が他者軽視傾向の低減に与える影響 | ○三島 爽暉 | 立正大学 |

O11 口頭発表

第1日 (11月9日) 17:00 ~ 18:00

9号館地下2階 9B21

文化・社会4

座長 石井 敬子

- | | | | |
|-------|--|---|--|
| O1101 | 17:00 ~ 17:15
集団サイズ増加による技術の累積的進化
論理回路の進化シミュレーションを通じた検討 | ○須山 巨基
佐藤 浩輔 | 明治学院大学・慶應義塾大学
明治大学 |
| O1102 | 17:15 ~ 17:30
Cultural difference of attributing individual contribution
in workplace contexts | ○Aya Uchida
Masataka Nakayama
Yukiko Uchida | Kyoto University
Kyoto University
Kyoto University |
| O1103 | 17:30 ~ 17:45
非言語的な手段による文化的価値の産出 | ○石井 敬子
大石 繁宏 | 名古屋大学
コロンビア大学 |

O12 口頭発表

第1日 (11月9日) 17:00 ~ 18:00

9号館地下2階 9B22

リスク認知

座長 中谷内 一也

- | | | | |
|-------|---|---|---|
| O1201 | 17:00 ~ 17:15
無知のヴェールによる手続きの公正さが社会的受容に及ぼす効果
高レベル放射性廃棄物地層処分候補地選定に関するシナリオ実験 | ○大沼 進
横山 実紀
広瀬 幸雄
大澤 英昭
大友 章司 | 北海道大学
北海道大学
関西大学
日本原子力研究開発機構
甲南女子大学 |
| O1202 | 17:15 ~ 17:30
様々なことがらに対する人びとの不安は年々高まっているのか
2008年から2019年にわたる4次の全国無作為抽出標本調査より | ○中谷内 一也 | 同志社大学 |
| O1203 | 17:30 ~ 17:45
曖昧さへの不耐性がリスク認知におよぼす効果 | ○土田 昭司
浦山 郁
静間 健人 | 関西大学
関西大学
関西大学 |

O13 口頭発表

第1日 (11月9日)

17:00 ~ 18:00

9号館地下2階 9B23

感情・動機1

座長 竹橋 洋毅

O1301	17:00 ~ 17:15 社会経済的地位と怒り表出のメカニズム 心理的特権意識・正当性評価に注目して	○志水 裕美 清水 裕士	関西学院大学 関西学院大学
O1302	17:15 ~ 17:30 社会的痛みと共感的苦痛の神経表象 自他間クロスデコーディングによる検証	○柳澤 邦昭 中井 隆介 浅野 孝平 阿部 修士	京都大学 京都大学 京都大学 京都大学
O1303	17:30 ~ 17:45 リーダーになろうとする意志の源泉とは何か？ 「責任マインドセット」という新たな概念の提案	○竹橋 洋毅 豊沢 純子	奈良女子大学 大阪教育大学

O14 口頭発表

第1日 (11月9日)

17:00 ~ 18:00

9号館地下1階 9B12

犯罪

座長 吉澤 寛之

- | | | | |
|-------|--|--|---|
| O1401 | 17:00 ~ 17:15
反社会的行動の行動決定心的過程の時系列的な相互
影響
—小中学生対象の縦断調査データを用いた検討— | ○吉澤 寛之
吉田 琢哉
浅野 良輔
玉井 颯一
吉田 俊和 | 岐阜大学
岐阜聖徳学園大学
久留米大学
高知工科大学
岐阜聖徳学園大学 |
| O1402 | 17:15 ~ 17:30
接触方略の違いが偏見低減過程に及ぼす影響：
PFI刑務所開設後の近隣住民の態度分析 | ○上瀬 由美子 | 立正大学 |
| O1403 | 17:30 ~ 17:45
加害者の処遇に対する有効性認知と更生支援活動参
加意向の関係 | ○讃井 知
上市 秀雄 | 筑波大学
筑波大学 |

O15 口頭発表

第1日 (11月9日)

17:00 ~ 18:00

9号館地下1階 9B13

集団1

座長 稲葉 美里

- | | | | |
|-------|--|---|---|
| O1501 | 17:00 ~ 17:15
Speed-accuracy tradeoff状況における二者の意思決定
プロセス | ○黒田 起吏
伊藤 真利子
大槻 久
亀田 達也 | 東京大学・日本学術振興会
東京大学
総合研究大学院大学
東京大学 |
| O1502 | 17:15 ~ 17:30
入れ子型社会的ジレンマにおける連結の効果とその範囲 | ○稲葉 美里
北梶 陽子 | 関西大学・日本学術振興会
広島大学 |
| O1503 | 17:30 ~ 17:45
Roles of Personalization in Discrimination Among
Post-Conflict Groups
Evidence from a Behavioral Experiment in Rwanda | ○Mayuko Onuki
Keitaro Aoyagi
Yoshito Takasaki | JICA Research Institute
Metrics Work Consultants Inc.
University of Tokyo |

O16 口頭発表

第2日(11月10日) 9:00～10:30

9号館地下2階 9B21

対人コミュニケーション4

座長 伊藤 健彦

- | | | | |
|-------|--|--|---|
| O1601 | 9:00～9:15
評価的情報とその共有可能性が向社会的行動に及ぼす影響 | ○堀 遼太郎
田中 知恵 | 明治学院大学
明治学院大学 |
| O1602 | 9:15～9:30
A few prolific liarsの再現性検証とDark Triadの影響 | ○大工 泰裕
Timothy R. Levine
Kim B. Serota | 大阪大学・日本学術振興会
University of Alabama at Birmingham
Oakland University |
| O1603 | 9:30～9:45
関係流動性が英語コミュニケーションの態度に与える影響 | ○伊藤 健彦 | 東洋大学 |
| O1604 | 9:45～10:00
ローカルな相互作用による限界質量モデルの妥当性検討
教室における実際の位置関係を反映させたシミュレーション | ○出口 拓彦 | 奈良教育大学 |
| O1605 | 10:00～10:15
自他のパーソナルスペースが人と人の間の通り抜け行為に与える影響 | ○友野 貴之
牧野 遼作
古山 宣洋
三嶋 博之 | 早稲田大学
早稲田大学
早稲田大学
早稲田大学 |

O17 口頭発表

第2日（11月10日） 9:00～10:15

9号館地下2階 9B22

社会的認知2

座長 浅井 暢子

- | | | | |
|-------|---|-------------------------|--------------------------|
| O1701 | 9:00～9:15
不況の知覚とゼロサム信念が内集団の広さに及ぼす影響 | ○竹部 成崇
中島 健一郎 | 大妻女子大学
広島大学 |
| O1702 | 9:15～9:30
「個か集団か」のジレンマとインクルーシブ教育に対する態度
学校教員の医学モデル観と社会モデル観を媒介要因とする分析 | ○前田 楓
橋本 博文
佐藤 剛介 | 安田女子大学
安田女子大学
高知大学 |
| O1703 | 9:30～9:45
行為者の識別可能性と集団実体性知覚および無差別報復との関連 | ○澤田 昂大
五十嵐 祐 | 名古屋大学
名古屋大学 |
| O1704 | 9:45～10:00
本質主義的信念と外集団間認知
集団間の遺伝的・環境的類似性に関する情報の効果 | ○浅井 暢子 | 京都文教大学 |

O18 口頭発表

第2日 (11月10日) 9:00 ~ 10:30

9号館地下2階 9B23

集団2

座長 福島 慎太郎

O1801	9:00 ~ 9:15 ボランティアのジレンマにおける公正感受性の正の影響 と負の影響 「誰かがやらなければいけない」状況での行動意思の 個人差	○ターン 有加里ジェシカ 東京大学 橋本 剛明 東京大学 唐沢 かおり 東京大学
O1802	9:15 ~ 9:30 一般的信頼と信頼行動の関連 信頼ゲームと分配委任ゲームを用いた検討	○仁科 国之 高知工科大学 三船 恒裕 高知工科大学
O1803	9:30 ~ 9:45 罰則システムは協力行動のCrowding-out現象をもたら す	○金 恵璘 東京大学 内藤 碧 東京大学 犬飼 佳吾 明治学院大学 亀田 達也 東京大学
O1804	9:45 ~ 10:00 信頼の二面性 —集団レベルのコミュニティ信頼は幸福を低下させる—	○福島 慎太郎 東京女子大学 竹村 幸祐 滋賀大学 内田 由紀子 京都大学 浅野 悟史 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 奥田 昇 総合地球環境学研究所
O1805	10:00 ~ 10:15 罰に対する感受性と協力の進化	○土田 修平 北海道大学 竹澤 正哲 北海道大学

O19 口頭発表

第2日 (11月10日) 9:00 ~ 10:30

9号館地下1階 9B12

感情・動機2

座長 中山 真孝

O1901	9:00 ~ 9:15 日本における「Awe」の意味 恐れと敬いとの弁別性の検証	○中山 真孝 内田 由紀子	京都大学 京都大学
O1902	9:15 ~ 9:30 日本人における感動とaweの重複と弁別性 ラベル付けと感情経験の2つの観点からの検討	○前浦 菜央 中山 真孝 内田 由紀子	京都大学 京都大学 京都大学
O1903	9:30 ~ 9:45 ポジティブ状況における羞恥感情の文化差 —関係流動性の役割に関する社会生態心理学的分析—	○前田 友吾 結城 雅樹	北海道大学 北海道大学
O1904	9:45 ~ 10:00 恩恵受領についての事前予測が感謝に及ぼす影響 思いがけず貰えるギフトこそありがたいのか	○山本 晶友 樋口 匡貴	上智大学 上智大学
O1905	10:00 ~ 10:15 心のゆとりが対人関係に及ぼす影響: ペアデータを用いた検討	○小林 亮太 宮谷 真人 中尾 敬	広島大学・日本学術振興会 広島大学 広島大学

O20 口頭発表

第2日 (11月10日) 9:00 ~ 10:30

9号館地下1階 9B13

組織・産業1

座長 池内 裕美

- | | | | |
|-------|---|-----------------|----------------------------------|
| O2001 | 9:00 ~ 9:15
能力格差と課題タイプが集団パフォーマンスに及ぼす影響
企業組織データを用いた分析 | ○仲間 大輔
竹村 幸祐 | 東京大学・リクルートマネジメントソリューションズ
滋賀大学 |
| O2002 | 9:15 ~ 9:30
危機に対応するリーダーの選択
グラス・クリフ効果と作動性リーダー | ○小久保 みどり | 立命館大学 |
| O2003 | 9:30 ~ 9:45
福祉サービスにおける苦情対応の実態と感情労働の特性
感情的知性および主観的ストレスとの関係性に注目して | ○池内 裕美 | 関西大学 |
| O2004 | 9:45 ~ 10:00
感情労働がワークエンゲイジメントを脅かすとき
感謝特性の媒介効果および仕事の意義の調整効果の検討 | ○池田 浩 | 九州大学 |
| O2005 | 10:00 ~ 10:15
職務経験のダイバーシティはワークエンゲイジメントを高めるか
2種類のダイバーシティ風土の機能の違い | ○正木 郁太郎 | 東京大学 |

O21 口頭発表

第2日 (11月10日)

10:45 ~ 12:15

9号館地下2階 9B21

ストレス・不適応2

座長 福島 治

- | | | | |
|-------|---|--|---|
| O2101 | 10:45 ~ 11:00
健康リスク情報に対する自己防衛反応の検討
スマホ依存傾向と健康リスク情報の提示が他者のスマホ
使用時間の推測に及ぼす影響 | ○下田 俊介
下田 麻衣 | 東洋大学
立正大学 |
| O2102 | 11:00 ~ 11:15
Twitterの利用は抑うつに影響するのか
Twitter利用行動と利用動機に着目して | ○田中 棕也
寶 雪 | 立命館大学
立命館大学 |
| O2103 | 11:15 ~ 11:30
対人ストレス・マインドセットと日常的な対人葛藤
葛藤経験後のネガティブ気分に対する調整効果 | ○尾崎 由佳
大久保 慧悟
雨宮 有里
高 史明
竹橋 洋毅 | 東洋大学
東洋大学・ディップ(株)
東洋大学
神奈川大学
奈良女子大学 |
| O2104 | 11:30 ~ 11:45
環境的文脈が不健康な消費行動を規定する媒介モデル
の検討 | ○大友 章司
濱口 郁枝 | 甲南女子大学
甲南女子大学 |
| O2105 | 11:45 ~ 12:00
混合効果位置スケールモデルによる人格特性の個人内
変動に関する自己愛と自尊心の効果の分析 | ○福島 治 | 新潟大学 |

O22 口頭発表

第2日(11月10日)

10:45～12:15

9号館地下2階 9B22

メディア

座長 広田 すみれ

- | | | | |
|-------|---|------------------------------------|--|
| O2201 | 10:45～11:00
メディア・フレームと情報の立場性の交互作用
生活保護報道に着目した検討 | ○中越 みずき
稲増 一憲 | 関西学院大学
関西学院大学 |
| O2202 | 11:00～11:15
テレビ番組のファンコミュニティ形成におけるネット利用
と心理的要因
—HTB「水曜どうでしょう」のファンへのインタビューを
元に— | ○広田 すみれ | 東京都市大学 |
| O2203 | 11:15～11:30
文化伝達の中から創発する構造
—非言語課題を用いた実験による検討— | ○中田 星矢
竹澤 正哲 | 北海道大学
北海道大学 |
| O2204 | 11:30～11:45
培養肉受容性の規定因に関する研究 | ○日比野 愛子
仲村 太志
古橋 麻衣
竹内 昌治 | 弘前大学
日清食品ホールディングス(株)
日清食品ホールディングス(株)
東京大学 |
| O2205 | 11:45～12:00
国際世論における主流形成
韓国海軍レーダー照射問題を題材として | ○稲増 一憲
小濱 祥子
多湖 淳 | 関西学院大学
北海道大学
早稲田大学 |

O23 口頭発表

第2日 (11月10日)

10:45 ~ 12:15

9号館地下2階 9B23

集団3

座長 相馬 敏彦

- | | | | |
|-------|--|-------------------------|--------------------------------|
| O2301 | 10:45 ~ 11:00
資源分配についての議論は不平等よりも不遇へ注意を
向けさせるか
二者間の合意形成場面を用いた研究 | ○上島 淳史
亀田 達也 | 東京大学・日本学術振興会
東京大学 |
| O2302 | 11:00 ~ 11:15
社会ネットワーク構造はいかに集合知に寄与するか？
一時間的変動環境における検討 | ○内藤 碧
増田 直紀
亀田 達也 | 東京大学
ブリストル大学
東京大学 |
| O2303 | 11:15 ~ 11:30
無知のヴェールは忌避施設立地問題の合意形成を促
進するか
指定廃棄物処分立地ゲームを用いた公正の観点による
検討 | ○横山 実紀
大沼 進
広瀬 幸雄 | 北海道大学・日本学術振興会
北海道大学
関西大学 |
| O2304 | 11:30 ~ 11:45
負の予測誤差とリスク下の意思決定の関係：
強化学習の進化モデルを用いた検討 | ○本間 祥吾
竹澤 正哲 | 北海道大学
北海道大学 |
| O2305 | 11:45 ~ 12:00
資源をもたない上司による分け隔てに害はない？
—LMX 分化が部下の公正知覚を通じて情緒的コミット
メントに影響するプロセス— | ○相馬 敏彦
堀田 彩
原口 恭彦 | 広島大学
広島大学
東京経済大学 |

O24 口頭発表

第2日 (11月10日)

10:45 ~ 12:15

9号館地下1階 9B12

コミュニティ

座長 高橋 尚也

- | | | |
|-------|--|---|
| O2401 | 10:45 ~ 11:00
社会関係資本と環境配慮行動の関連の検討
札幌市における社会調査データの分析 | ○水鳥 翔伍 北海道大学
大沼 進 北海道大学
Hommerich Carola 北海道大学 |
| O2402 | 11:00 ~ 11:15
自治体広報に対する評価が市民参加に与える影響 | ○高橋 尚也 立正大学
小林 梨紗 (株)マクロミル |
| O2403 | 11:15 ~ 11:30
ポジティブな強みを活かした防災教育の実践 (3)
徳性と専門性の強みがグループ活動の成果に与える影響 | ○豊沢 純子 大阪教育大学
竹橋 洋毅 奈良女子大学
島井 哲志 関西福祉科学大学 |
| O2404 | 11:30 ~ 11:45
社会参加は主観的ウェルビーイングを向上させるか
札幌市まちづくりに関する調査 | ○佐藤 和成 北海道大学
大沼 進 北海道大学
水鳥 翔伍 北海道大学
Hommerich Carola 北海道大学 |
| O2405 | 11:45 ~ 12:00
119番通報の事前知識がコミュニケーションの迅速さに及ぼす効果 | ○塩谷 尚正 梅花女子大学
木村 昌紀 神戸女学院大学
北小屋 裕 京都橘大学 |

O25 口頭発表

第2日 (11月10日)

10:45 ~ 12:15

9号館地下1階 9B13

組織・産業2

座長 今城 志保

- | | | | |
|-------|---|---------------------------|--|
| O2501 | 10:45 ~ 11:00
主観的ウェルビーイングの適応不全を探る
日本における職業ステータス移行 | ○田中 陽平 | 東北大学 |
| O2502 | 11:00 ~ 11:15
経験からの学習プロセスを検証する
行為内リフレクションと行為に関するリフレクションの実
験的検討 | ○今城 志保
藤村 直子
佐藤 裕子 | (株)リクルートマネジメントソリューションズ
(株)リクルートマネジメントソリューションズ
(株)リクルートマネジメントソリューションズ |
| O2503 | 11:15 ~ 11:30
応用演劇的手法を用いたPBL型トレーニングILTADの
第3期シナリオの効果検証
—ホームレスの就労適応力の更なる向上に向けて— | ○藤本 学 | 立命館大学 |
| O2504 | 11:30 ~ 11:45
休みへの認識がリカバリー経験およびwell-beingに及
ぼす影響 | ○宮川 えりか
小口 孝司 | 立教大学
立教大学 |
| O2505 | 11:45 ~ 12:00
苦勞をして獲得した内定の意味は、マインドセットで異
なるのか？
暗黙の知能観と新卒入社企業に対する後悔との関連 | ○大久保 慧悟
竹橋 洋毅
尾崎 由佳 | 東洋大学・ディップ(株)
奈良女子大学
東洋大学 |

P01 ポスター発表

第1日 (11月9日) 9:00 ~ 10:30

9号館3階 933

在席責任時間 奇数番号 : 9:10 ~ 9:55 偶数番号 : 9:35 ~ 10:20

P0101	儀礼的感謝行動と対人関係の良好さの認知との関連	○渡部 麻美 相川 充	東洋英和女学院大学 筑波大学
P0102	嘘をつく際に用いられる言語的方略の日英比較	○太幡 直也 Aldert Vrij	愛知学院大学 University of Portsmouth
P0103	日常的攻撃行動尺度の信頼性と妥当性の検討 性格の5因子モデルと怒り表出傾向を用いて	○石橋 加帆 桐生 正幸	東洋大学 東洋大学
P0104	女性ステレオタイプのプライミングが言語使用に及ぼす影響 「女性」の生起割合と共起語の差異に着目して	○笠原 伊織 宇佐美 まゆみ 唐沢 穰	名古屋大学 国立国語研究所 名古屋大学
P0105	愚痴の聞き手の負担感の規定因に関する検討	○山本 佳奈 池上 知子	大阪市立大学 大阪市立大学
P0106	ウェル・ビーイング活性化に関するweb介入の試み (2) —5種の介入に対応するウェル・ビーイングの変動—	○堀毛 一也 堀毛 裕子	東洋大学 東北学院大学
P0107	日本語会話におけるディスクレイマー (disclaimer) の影響	○酒井 拓人	愛知学院大学
P0108	友人選択基準に関する日中韓台比較 EASS 2008による検討	○林 萍萍	大阪商業大学
P0109	他者からの「日常生活における他者操作方略」が女子大学生の承諾におよぼす影響 (2) —アルバイトにおける店長からの操作を想定して—	○木川 智美 今城 周造	昭和女子大学 昭和女子大学
P0110	コミュニケーション・スキルに及ぼす心理ゲームの効果 (1) —複雑系人狼ゲームがコミュニケーション・スキルに与える影響—	○牧野 幸志	摂南大学
P0111	被情動的視点取得の知覚が被共感の知覚および自他の重なり知覚に及ぼす影響	○鈴木 雄大 山川 樹 坂本 真士	日本大学 日本大学 日本大学
P0112	関係流動性が多元的無知に与える影響	○中村 咲恵	広島国際大学
P0113	趣味コミュニティへの参加による自己肯定感の変化	○寺垣内 雅子 今川 真治 中島 健一郎	広島大学 広島大学 広島大学
P0114	LINEのグルーブトークでスルーしやすい話題の特徴に関する基礎調査	○宇宿 公紀 加藤 尚吾 加藤 由樹 千田 国広	都立瑞穂農芸高等学校 東京女子大学 相模女子大学 東映アニメーション
P0115	LINEでの攻撃性とその攻撃性を促進する要因について	○陳 晗 竇 雪	立命館大学 立命館大学

ポスター発表 P01 第1日

P0116	間接的要求の解釈にバイアスを生じさせる社会的環境の存在	○平川 真	広島大学
P0117	援助される経験は援助要請回避行動に変化をもたらすのか 大学生から大学新入生へのピア・サポート効果の検討	○玉水 克明 浦 光博	追手門学院大学 追手門学院大学
P0118	SNS の利用と生活充実度・居場所感の関係性について	○小幡 直弘	北星学園大学
P0119	指導者によるスポーツ・ハラスメントを測定する尺度の開発 (3) —大学生・専門学校生を対象とする回顧的調査—	○大橋 恵 藤後 悦子 井梅 由美子	東京未来大学 東京未来大学 東京未来大学

P02 ポスター発表

第1日(11月9日) 9:00～10:30

9号館4階 942

在席責任時間 奇数番号: 9:10～9:55 偶数番号: 9:35～10:20

P0201	排斥経験中の皺眉筋活動に対する特性自尊心の影響	○伊崎 翼 小川 景子	産業技術総合研究所 広島大学
P0202	結婚の自由と晩婚化 最大化戦略は初婚を遅くするか	○石黒 格	日本女子大学
P0203	夫と旧友の社会的代理人としての利用が女性のサポートネットワークと精神的不適応に及ぼす影響 —妊娠期から出産後1年以上経過時までの3波データによる検討—	○西村 太志 古谷 嘉一郎 相馬 敏彦 長沼 貴美	広島国際大学 北海学園大学 広島大学 創価大学
P0204	集団内成員間での互惠性認知に与える影響に関する性差の検討 —大学生のインフォーマル集団を対象にした分析—	○上田 仁 松浦 均	三重大学 三重大学
P0205	恋愛経験が理想の恋人特性に与える影響	○玉宮 義之 澁澤 茉利亜	白鷗大学 日光金属(株)
P0206	友好的な呼称で呼び合える友人関係の育成: SAが展開するグループワークで構成された初年次教育プログラム	○谷田 林士 野村 小百合 福地 莉歩	大正大学 山陰ケーブルテレビジョン(株)
P0207	叱りの対人的効果	○阿部 晋吾	関西大学
P0208	異性との不快体験が異性回避傾向に及ぼす効果	○山岡 重行	聖徳大学
P0209	大学生の友人との関わり方と孤独感の関連 —友人関係における円滑さ・真面目さ傾向に着目して—	○近藤 将人	名古屋大学
P0210	夫婦の共同志向性と主観的幸福感 行為者—パートナー相互依存性調整モデルによる検討	○宮崎 弦太	東京女子大学
P0211	完全主義懸念と努力が精神的健康にあたえる影響 —サポートを媒介要因として—	○古谷 嘉一郎	北海学園大学
P0212	壮年期世代のペット喪失感情について (1) —飼い主の語りの探索的分析 回顧を中心に—	○松田 光恵	くらしき作陽大学
P0213	適応および不適応を捉える視点に関する研究 —教員へのインタビュー調査による検討—	○青陽 千果	札幌市スクールカウンセラー
P0214	スポーツチームの感謝風土に関する検討	○久保 昂大 杉山 佳生	九州大学 九州大学
P0215	購買意図に対するコミュニティ参加当初の期待と活動の影響	○大戸 朋子 塚常 健太 新井田 統	KDDI総合研究所 KDDI総合研究所 KDDI総合研究所
P0216	なぜ未婚者は結婚支援サービスを利用しないのか —サービス利用意図の日米差とその起因に関する比較文化研究—	○鬼頭 美江 山田 順子	明治学院大学 玉川大学

ポスター発表 P02 第1日

- | | | | |
|-------|---|---------------------------|--------------------------|
| P0217 | 家族と男女と互惠性の進化心理学を追試する (3)
Healey & Ellis (2007), Bech-Sørensen & Pollet
(2016), Cosmides et al. (2010) | ○平石 界 | 慶應義塾大学 |
| P0218 | 夫婦関係における関係良好性の変化
—— 2年間の夫婦ペア縦断調査による検討 —— | ○古村 健太郎
金政 祐司
浅野 良輔 | 弘前大学
追手門学院大学
久留米大学 |

P03 ポスター発表

第1日 (11月9日) 9:00 ~ 10:30

9号館4階 943

在席責任時間 奇数番号 : 9:10 ~ 9:55 偶数番号 : 9:35 ~ 10:20

P0301	集団同一視傾向尺度の開発と信頼性・妥当性の検討	○松木 祐馬	早稲田大学
P0302	国際的スポーツイベントとナショナル・アイデンティティの変化 ーワールドカップサッカー・ロシア大会を対象とした研究ー	○佐久間 勲	文教大学
P0303	集合行為または集団内コミュニケーションが肯定的な社会的アイデンティティに及ぼす効果	○垂澤 由美子	甲南女子大学
P0304	第三者による罰行動の正当性が高いのはいかなる状況か 6つの経済ゲーム状況の間での比較	○館石 和香葉 高橋 伸幸	北海道大学 北海道大学
P0305	ファン行動に基づいたファン分類とファン行動関連要因に関する検討	○片桐 諒子	東洋大学
P0306	PDゲームにおける視線分析 (2) 関係性による視線推移構造の差異	○安念 保昌 高橋 徹	愛知みずほ大学 愛知みずほ大学
P0307	長期的関係への投資行動と機会コストの関係の検討	○真島 理恵 高橋 伸幸	北海道医療大学 北海道大学
P0308	道徳ジレンマ課題における価値判断とMoral Disengagementとの関連 (2)	○早坂 太志	上越教育大学
P0309	コミュニケーション構造の違いが集団凝集性 (魅力度) に及ぼす影響	○飯塚 優乃	神戸女学院大学
P0310	成員の迷惑行為に対する組織対応の評価に補償行動と感情が及ぼす影響	○磯部 智加衣 古川 善也 相馬 敏彦	千葉大学 広島大学 広島大学
P0311	開放性がダイバーシティ・イデオロギーに与える影響 ー視点取得の媒介効果の検討ー	○服部 典利子 坂田 桐子	広島大学 広島大学
P0312	発表取消		
P0313	「目」は「ずる」を抑止する スーパーマーケットでの買い物カゴ持ち去り抑止についてのフィールド実験	○森 久美子	関西学院大学
P0314	間接互惠状況において異なる社会階層に対して期待する規範	○梅谷 凌平 山本 仁志	立正大学 立正大学
P0315	社会経済的格差が協力行動に及ぼす影響： 繰り返し囚人のジレンマゲームによる検証	○陳 佳玉 五十嵐 祐	名古屋大学 名古屋大学
P0316	小集団の規範が入れ子型社会的ジレンマにおける協力に与える影響	○北梶 陽子 稲葉 美里	広島大学 関西大学・日本学術振興会
P0317	寛容さを予測する文化社会的要因と認知的完結欲求	○塚本 早織 Christina Brown	愛知学院大学 Arcadia University

ポスター発表 P03 第1日

P0318	他者感情推測が苦手な学生が小集団活動時に発言しやすい環境	○原田 知佳 土屋 耕治	名城大学 南山大学
P0319	罰行使者に対する評価の文化差 社会的ジレンマ状況における罰は肯定的な評価をもたらすか？	○熊井 優日 前田 楓 橋本 博文	安田女子大学 安田女子大学 安田女子大学
P0320	確率的な罰がある状況での非協力と損失の確率価値割引 罰あり公共財ゲームにおける非協力と損失の大きさの主観的認知	○水野 景子 清水 裕士	関西学院大学 関西学院大学

P04 ポスター発表

第1日 (11月9日) 13:30 ~ 15:00

9号館3階 933

在席責任時間 奇数番号: 13:40 ~ 14:25 偶数番号: 14:05 ~ 14:50

P0401	環境的宗教ブライミングによる協力行動への影響 宗教属性を踏まえた検討	○樋口 匡貴 吉野 ゆい	上智大学 上智大学
P0402	日本人の自然観と環境観 —環境配慮意識・行動との関連を中心に—	○川端 美樹	目白大学
P0403	都市環境と人生満足度に関する日米比較 —非公式社会的統制による媒介過程—	○浅野 良輔 一言 英文 伊藤 健一	久留米大学 福岡大学 Nanyang Technological University
P0404	在中国日本人留学生の中国文化適応に関する社会的 スキル・トレーニングの試み	○毛 新華 木村 昌紀 胡 金生	神戸学院大学 神戸女学院大学 遼寧師範大学
P0405	他者志向的社会不安に対する社会生態学的アプローチ 居住地域規模による比較	○佐藤 剛介	高知大学
P0406	日常的な道徳判断における判断基準の日米比較	○松尾 朗子 Vinai Norasakkunkit 唐沢 穰	名古屋大学 Gonzaga University 名古屋大学
P0407	生産者の温暖化適応行動に影響する要因の検討 米麦・豆・野菜を栽培する生産者の意識調査	○今井 葉子 増富 祐司 田村 誠 馬場 健司	茨城大学 茨城大学 茨城大学 東京都市大学
P0408	四国遍路の接待者 (1) 発心の道場 阿波国篇	○林 幸史	大阪国際大学
P0409	防災行動意図の規定因に関する実験的検討 責任意識は対処コスト認知のネガティブ影響を調整する か?	○田中 里奈 竹橋 洋毅	奈良女子大学 奈良女子大学
P0410	多文化主義は社会参加を促進するのか? —文化変容イデオロギー, 社会参加, ウェルビーイングとの関連—	○森泉 哲	南山大学
P0411	テキストデータから見る内在的公正推論 日米・世代間比較を通じた検討	○村山 綾 三浦 麻子	近畿大学 大阪大学
P0412	日本版謙遜行動尺度における妥当性、及び年代差の 検討	○山崎 瑞紀	東京都市大学
P0413	チャリティーショップ利用意図の規定因 利用経験者と未利用者の比較	○前田 洋枝 渡邊 聡	南山大学 愛知淑徳大学
P0414	個性的な犬を求めて: 日本における個人主義傾向の増加	○荻原 祐二 内田 由紀子	東京理科大学 京都大学
P0415	日本人の死後観 死後生はどのように信じられているか	○白岩 祐子 堀江 宗正 唐沢 かおり	東京大学 東京大学 東京大学

ポスター発表 P04 第1日

P0416	独立・協調と社会経済的地位の相互作用 日独比較研究	○辻 啓人 石井 敬子	名古屋大学 名古屋大学
P0417	駅ホームの安全装置に関する旅客の認知 性差と年代差に着目して	○山内 香奈 小野間 統子 菊地 史倫	(公財) 鉄道総合技術研究所 (公財) 鉄道総合技術研究所 (公財) 鉄道総合技術研究所
P0418	ペットボトル分別行動促進に向けた長期的な介入 ごみ箱の観察データに基づく検討	○森 康浩	宮城学院女子大学
P0419	宗教的伝統の文化的ネスト構造 生態学的分析手法を用いて	○中分 遥	九州大学・オックスフォード大学
P0420	首都圏ファミリー世帯の省エネルギー行動と価値観の 影響	○大塚 彩美 増田 達矢 鳴海 大典	早稲田大学 横浜国立大学 横浜国立大学

P05 ポスター発表

第1日 (11月9日) 13:30～15:00

9号館4階 942

在席責任時間 奇数番号：13:40～14:25 偶数番号：14:05～14:50

P0501	量刑判断に至る社会考慮の影響について	○北折 充隆	金城学院大学
P0502	スマートフォン依存に関連する要因 (2) —スマートフォン利用時間と学習障害、情緒的側面との関連—	○三島 浩路 黒川 雅幸 小西 達也 永田 雅俊 本庄 勝 米山 暁夫	中部大学 愛知教育大学 (株)KDDI総合研究所 (株)KDDI総合研究所 (株)KDDI総合研究所 (株)KDDI総合研究所
P0503	医療スタッフの患者の家族対応指標への手がかり	○高井 範子 行岡 秀和	大阪行岡医療大学 大阪行岡医療大学
P0504	子どもを育む学校・家庭・地域間連携に関する研究 (4) —学校行事を通しての地域住民との交流および保護者の参加が子どもの社会化に及ぼす影響—	○吉田 琢哉 吉澤 寛之 浅野 良輔 玉井 颯一 吉田 俊和	岐阜聖徳学園大学 岐阜大学 久留米大学 高知工科大学 岐阜聖徳学園大学
P0505	健康診断結果通知後の再検査受診を促進する要因について	○川角 公乃 依田 尚也	学習院大学 学習院大学
P0506	災害時における被災者非難の生起メカニズムの検討 —公正世界信念の機能に注目して—	○加藤 聖子 坂田 桐子	広島大学 広島大学
P0507	暗黙理論の形成に影響を与える教育環境的諸要因の検討	○鈴木 啓太 村本 由紀子	東京大学 東京大学
P0508	中学生の認知のゆがみがいじめ加害経験に与える短期的影響	○大西 彩子 木下 雅博 Yoshito Kawabata	甲南大学 甲南大学 University of Guam
P0509	上司から女性部下への評価 —地位脅威とジェンダー脅威—	○清末 有紀 森永 康子	広島大学 広島大学
P0510	地方自治体における市民の政治意識 2015年から2019年の経年変化	○三浦 麻子 稲増 一憲 中村 早希	大阪大学 関西学院大学 関西学院大学
P0511	支援情報発信源としての行政への態度の分析 —沖縄県における低所得者への聞き取りから—	○石原 綾華 中川 一史	放送大学 放送大学
P0512	所得格差情報に対する多元的正当化 システムへの依存性および公正観の調整効果の検討	○川嶋 伸佳	神奈川大学
P0513	身近な犯罪における加害者家族に対する社会的責任イメージ —「正当世界信念」と「権威主義的傾向」を用いて—	○小林 彩乃	東洋大学
P0514	Uターンの規定因に関する社会心理学的検討 在京大学生と30歳代成人との2層による検討	○小浜 駿	宇都宮共和大学

ポスター発表 P05 第1日

P0515	平等主義的状況下におけるホモフォビアの表出 伝統的家族規範による正当化効果の検討	○安達 菜穂子 池上 知子	大阪市立大学 大阪市立大学
P0516	子の数は減っているのに、親の育児時間は増えている 生活史戦略理論に基づく社会生活基本調査を用いた 分析	○松田 昌史	NTTコミュニケーション科学基礎研究所
P0517	職場における〈妊婦〉化のプロセス（2） 職場環境と〈働き手〉／〈妊婦〉志向の関係の類型 からみる妊娠受容	○足立 にれか	白百合女子大学
P0518	東日本大震災被災者の精神的健康の推移に影響を及 ぼす要因の検討	○相羽 美幸 太刀川 弘和 袖山 紀子 高橋 晶	東洋学園大学 筑波大学 筑波大学 筑波大学
P0519	後期高齢者の家族、友人、近隣ソーシャル・サポート の軌跡 3年間の追跡調査から	○菅原 育子 高山 緑 石岡 良子	東京大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学

P06 ポスター発表

第1日 (11月9日) 13:30 ~ 15:00

9号館4階 943

在席責任時間 奇数番号 : 13:40 ~ 14:25 偶数番号 : 14:05 ~ 14:50

P0601	葛藤解決における寛容 誰がどのように被害者の寛容抑制動機を和らげるのか	○山口 奈緒美	東北福祉大学
P0602	「部活」健康度尺度の作成 1 項目の収集と妥当性の検討	○太田 仁 西田 公昭	奈良大学 立正大学
P0603	学級の社会的目標に対する児童認知の類型化の試み	○山本 琢俣 上淵 寿	早稲田大学 早稲田大学
P0604	運に関する信念と他者排斥に認知的複雑性が及ぼす 影響の検討	○久禮 まゆ 神山 貴弥	同志社大学 同志社大学
P0605	孤立回避的同調行動についての検討 : ASD傾向との関連に着目して	○ケイン 聡一 中島 健一郎	広島大学 広島大学
P0606	服従実験の教師役の行動に対する目撃者の認知 教師役の服従率に関する情報の影響	○釘原 直樹 綿村 英一郎	東筑紫短期大学 大阪大学
P0607	組織特性が大学生の知覚する組織の魅力に及ぼす影 響 (5) 大学生の協調性の調整効果	○高木 浩人 石田 正浩	愛知学院大学 京都府立大学
P0608	日本語版中庸尺度の作成及び妥当性・信頼性の検討	○竹村 和久 李 之林 楊 政達	早稲田大学 早稲田大学 国立成功大学
P0609	謝罪における誠意 — 謝罪受容に対するお詫び品の重量効果 —	○上原 俊介 鈴木 美祐	鈴鹿医療科学大学 鈴鹿医療科学大学
P0610	戦略的自己呈示と着装における印象管理	○遠藤 健治	青山学院大学
P0611	「おそろいでかわいい♥」の背景 (2) — 双子コーデの経験有無による双子コーデ現象のとら え方の違い —	○市村 美帆 新井 洋輔	和洋女子大学 東京福祉大学
P0612	ファン行動における社会的迷惑行為	○藤川 翔子	東京女子大学
P0613	記述的規範の逆効果 防災行動への記述的規範の促進効果と抑制効果	○尾崎 拓 中谷内 一也	同志社大学 同志社大学
P0614	間接的な要求は直接的な要求と同様に服従を引き起こ すのか Milgramの実験パラダイムに基づく「忖度」の心理学 実験	○後藤 崇志 廣野 優一郎 細馬 宏通	滋賀県立大学 (株)京都新聞COM 早稲田大学
P0615	シェアド・リーダーシップは集団の生産性とメンバー シップにどのように影響するか	秋田 沙也加 ○本多ハワード 素子	TAKEUCHI(株) 昭和女子大学
P0616	職場における包摂性が集団生産性に及ぼす影響	○坂田 桐子 馬 萌	広島大学 広島大学

ポスター発表 P06 第1日

P0617	「不人気な規範」の維持メカニズムについての検討 流動性に着目して	○岩谷 舟真 長谷川 明紀 村本 由紀子 正木 郁太郎 今城 志保	東京大学 東京大学 東京大学 東京大学 (株)リクルートマネジメントソリューションズ
P0618	ヘアスタイルの差異による顔形態印象の違い 女子大学生のヘアスタイルとの関連に着目して	○九島 紀子	立正大学
P0619	対人特性と対人葛藤方略の関連	○橋本 泰央 小塩 真司	早稲田大学・帝京短期大学 早稲田大学
P0620	社会的排斥が食欲に及ぼす影響	○金子 迪大 尾崎 由佳 野村 理朗	京都大学・日本学術振興会 東洋大学 京都大学

P07 ポスター発表

第2日 (11月10日) 9:30 ~ 11:00

9号館3階 933

在席責任時間 奇数番号: 9:40 ~ 10:25 偶数番号: 10:05 ~ 10:50

P0701	スマートフォンによるネット依存傾向と家庭環境との関連	○黒川 雅幸 三島 浩路 小西 達也 永田 雅俊 本庄 勝 米山 暁夫	愛知教育大学 中部大学 (株)KDDI総合研究所 (株)KDDI総合研究所 (株)KDDI総合研究所 (株)KDDI総合研究所
P0702	「日本ネタ」はテレビ番組でどのように描かれているか (1) 番組の基本情報の分析を中心に	○有馬 明恵 山下 玲子 志岐 裕子 藤井 達也	東京女子大学 東京経済大学 東京女子大学 武蔵大学
P0703	「日本ネタ」はテレビ番組でどのように描かれているか (2) 番組コーナーの構成要素にみられる特徴について	○志岐 裕子 有馬 明恵 山下 玲子 藤井 達也	東京女子大学 東京女子大学 東京経済大学 武蔵大学
P0704	「日本ネタ」はテレビ番組でどのように描かれているか (3) 「日本ネタ」に対する評価内容の分析を中心に	○藤井 達也 山下 玲子 有馬 明恵 志岐 裕子	武蔵大学 東京経済大学 東京女子大学 東京女子大学
P0705	世論調査における選択肢分割効果 社会階層意識における「中」回答の検討	○増田 真也	慶應義塾大学
P0706	ひとは「発達障害」という用語の使用に何を求めているか Yahoo! 知恵袋の回答にみられる特徴語に注目して	○中村 日海里 栗田 季佳	三重大学 三重大学
P0707	レビューサイトの過去の評価が投稿者の評価に与える影響 投稿された映画評価の分析による検討	○樋口 浩一	放送大学
P0708	メディアの種類によって第三者効果の程度は異なるか	○正木 誠子	慶應義塾大学
P0709	政治的意見接触に対する政治的態度とニュース利用の交互作用効果	○北村 智 辻 大介 河井 大介	東京経済大学 大阪大学 東京大学
P0710	原子力災害による放射線に対する不安の現在 —福島県外の人々に着目して—	○元吉 忠寛	関西大学
P0711	先端科学技術エンゲージメントを醸成する要因の探索	○鈴木 万希枝	東京工科大学
P0712	母国メディアの利用と影響 (2) —日本人海外在住経験者のメディア利用動機—	○李 津娥 李 光鎬	慶應義塾大学 慶應義塾大学
P0713	母国メディアの利用と影響 (3) —日本人海外在住経験者におけるメディア利用の影響—	○李 光鎬 李 津娥	慶應義塾大学 慶應義塾大学

ポスター発表 P07 第2日

P0714	保護者評定によるデジタルゲーム依存尺度の作成 (3) 短縮版作成の試み	○松尾 由美 田島 祥 鄭 姝 堀内 由樹子 寺本 水羽 坂元 章	関東短期大学 東海大学 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学
P0715	教師教育におけるメディア史・メディア論的知見の活用 ネット教育に対する研究者からの貢献可能性	○ハッ塚 一郎	熊本大学
P0716	女子大学生のSNSに対する個人情報開示と炎上の意識	○山田 純加	東京女子大学
P0717	SNS への投稿及び拡散に対する行動意図を予測する 諸要因 普段のSNSの利用状況との関連	○田島 祥	東海大学
P0718	平成時代のNo.1ヒット曲の特徴 性別, 属性, 視点による分析	○渡邊 寛	筑波大学・日本学術振興会
P0719	自尊心とポジティブツイートとフォロワーからの返信が感情反応に及ぼす影響 ——ポジティブツイートへの賞賛・共感, いかなる感情を生起させるか? ——	○長谷川 孝治 古里 由香里	駒澤大学 立教大学
P0720	コミュニケーション欲求充足のメディア・レパートリー 社会心理学的変数との関係についての世代別検討	○大坪 寛子	慶應義塾大学

P08 ポスター発表

第2日(11月10日) 9:30～11:00

9号館4階 942

在席責任時間 奇数番号: 9:40～10:25 偶数番号: 10:05～10:50

P0801	リサイクル実践事例に対する印象についての検討	○白井 美穂	武蔵野美術大学・LSa
P0802	ふるさと納税 ～納税者の心理に着目して～	○福林 直 田中 咲野	筑波大学 筑波大学
P0803	画像解析を用いた購買時眼球運動の検討	○渡辺 藍丸 川杉 桂太 村上 始 天野 淳 竹村 和久	早稲田大学 早稲田大学 早稲田大学・日本学術振興会 (株)美工IMC 早稲田大学
P0804	仮想接触相手の想像しやすさが仮想接触後の態度に及ぼす効果 —ゲイ男性との仮想接触による検討—	○堀川 佑惟 岡 隆	日本大学 日本大学
P0805	2者から異なる方向に説得される状況における手がかりと論拠の相対的な優劣が態度変容プロセスに及ぼす影響	○中村 早希 三浦 麻子	関西学院大学 大阪大学
P0806	片付け行動による生き方の変化1 片付けによる変化の尺度構成	○有野 雄大 伊藤 実佐子 大須 晶子	筑波大学 筑波大学 筑波大学
P0807	片付け行動による生き方の変化2 片付けによる生き方変化に影響する要因の分析	○大須 晶子 伊藤 実佐子 有野 雄大	筑波大学 筑波大学 筑波大学
P0808	消費者特性によるCMへの注目度: 購買態度が合理的である消費者のケース	○浅川 雅美 岡野 雅雄	文教大学 文教大学
P0809	ビデオ・アシスタント・レフェリーによる判定の第三者評価 2018 FIFA ワールドカップを手掛かりに	○安部 健太	帝京大学
P0810	大学生における発達障害児(者)に対する態度の規定因の検討 —接触経験, 知識, 性別との関連から—	○清水 真世	広島国際大学
P0811	買物意識の規定因を探る(1) 社会経済的要因で買物意識は異なるのか?	○大久保 暢俊 鷹阪 龍太 山田 一成	東洋大学 東洋大学 東洋大学
P0812	買物意識の規定因を探る(2) Big Five 性格特性によって買物意識は異なるのか?	○鷹阪 龍太 大久保 暢俊 山田 一成	東洋大学 東洋大学 東洋大学
P0813	買物意識の規定因を探る(3) 社会経済的要因と買物意識類型の関連について	○山田 一成 大久保 暢俊 鷹阪 龍太	東洋大学 東洋大学 東洋大学
P0814	地元建設業者の役割周知におけるエピソード型情報提供の有効性	○田中 皓介 鷲尾 寛子	東京理科大学 東京理科大学

ポスター発表 P08 第2日

P0815	Shift-and-Persist strategyと低社会経済的地位者のやりぬく力（Grit） — メタ分析による検討 —	○李 受珉 中島 健一郎	広島大学 広島大学
P0816	普及啓発活動の経験と認知症者に対する態度の関係 視点取得（認知症になったとしたら）に基づく顕在的イメージを含めた検討	○遠藤 忠 岡 隆 谷田 林士 村山 憲男	長野大学 日本大学 大正大学 順天堂大学
P0817	存在論的恐怖が将来の消費支出の予測に及ぼす影響 子どもを持ちたいという欲求の調節効果とその性差	○脇本 竜太郎	明治大学
P0818	家庭と仕事の葛藤予測と両立志向の関連性について — 未婚者を対象とした検討 —	○高林 久美子	東京女子大学
P0819	倫理的消費に対する態度と授産製品に許容する価格 上限	○岩井 阿礼	淑徳大学

P09 ポスター発表

第2日 (11月10日) 9:30 ~ 11:00

9号館4階 943

在席責任時間 奇数番号 : 9:40 ~ 10:25 偶数番号 : 10:05 ~ 10:50

P0901	日本と中国の比較情報による日本人の中国に対する印象評価に及ぼす影響 —自己評価維持の観点から—	○野田 夏希	日本大学
P0902	感染脆弱意識とワーキングメモリキャパシティがスティグマ集団への態度に及ぼす影響	○吉田 綾乃	東北福祉大学
P0903	性風俗関連特殊営業に従事する女性たちの意識1 —やりがいと魅力に関する検討—	○中村 倫子	筑波大学
P0904	障がい者に対する支援的態度の規定因 —分配的公正観との関連—	○木田 千裕 池上 知子	大阪市立大学 大阪市立大学
P0905	遺伝子に基づく説明が責任帰属に与える影響 遺伝子本質主義の態度に着目して	○苔米地 飛 唐沢 かおり	東京大学 東京大学
P0906	先端科学に対するリスク認知 (1) —知識量と信頼感の影響—	○高木 彩 小森 めぐみ 武田 美亜	千葉工業大学 淑徳大学 青山学院女子短期大学
P0907	先端科学に対するリスク認知 (2) —畏怖・嫌悪感情と科学技術に対する価値観の影響—	○小森 めぐみ 高木 彩 武田 美亜	淑徳大学 千葉工業大学 青山学院女子短期大学
P0908	先端科学に対するリスク認知 (3) —生物および環境に関連する先端科学技術を対象とした検討—	○武田 美亜 高木 彩 小森 めぐみ	青山学院女子短期大学 千葉工業大学 淑徳大学
P0909	悪性・良性妬み行動の測定 —格差の原因と自尊心の影響—	○中井 彩香 沼崎 誠	首都大学東京 首都大学東京
P0910	犯罪加害者に対する認知と「非人間化」	○綿貫 咲穂	東洋大学
P0911	他者の視点に立つことがステレオタイプ低減に及ぼす影響	○田村 美恵	神戸市外国語大学
P0912	不思議現象に対する態度の変容 不思議現象に対する態度 (63)	○小城 英子 坂田 浩之 川上 正浩	聖心女子大学 大阪樟蔭女子大学 大阪樟蔭女子大学
P0913	不思議現象に対する態度がウェルビーイングに及ぼす影響 不思議現象に対する態度 (64)	○坂田 浩之 川上 正浩 小城 英子	大阪樟蔭女子大学 大阪樟蔭女子大学 聖心女子大学
P0914	なぜフリーターはバッシングされるか？ ステレオタイプ内容モデルからの検討	○田戸岡 好香 石井 国雄	高崎経済大学 清泉女学院大学
P0915	オタクとはどんな人々か？ (1) 性格特性によるオタクの類型化	○高田 治樹 菊地 学 尹 成秀	目白大学 目白大学 帝京大学

ポスター発表 P09 第2日

P0916	オタクとはどんな人々なのか？ (2) オタクと一般人がイメージするオタクステレオタイプの差異	○菊地 学 高田 治樹 尹 成秀	目白大学 目白大学 帝京大学
P0917	オタクとはどんな人々なのか？ (3) 様々な種類のオタクに関するイメージ	○尹 成秀 高田 治樹 菊地 学	帝京大学 目白大学 目白大学
P0918	日本における犯罪者に対するステレオタイプの様態 自由記述を用いた検討	○佐名 龍太 五十嵐 祐	名古屋大学 名古屋大学
P0919	母親の就労状況と娘の潜在的ジェンダー職業ステレオタイプ、キャリア選択の理想度	○小林 知博	神戸女学院大学

P10 ポスター発表

第2日(11月10日) 11:30 ~ 13:00

9号館3階 933

在席責任時間 奇数番号: 11:40 ~ 12:25 偶数番号: 12:05 ~ 12:50

P1001	大学での学業遂行と適応を支える心理特性 (13) 複数大学データによる大学ごとのクラス分析	○川上 正浩 小城 英子 畑中 美穂	大阪樟蔭女子大学 聖心女子大学 名城大学
P1002	大学での学業遂行と適応を支える心理特性 (14) 複数大学データによる回答者の類型と適応指標との関連	○畑中 美穂 川上 正浩 小城 英子	名城大学 大阪樟蔭女子大学 聖心女子大学
P1003	児童期に知覚された共感と動機づけとの関連	○小池 はるか	東海大学短期大学部
P1004	入学前後の大学観の変化と大学適応との関連について	○水野 邦夫	帝塚山大学
P1005	死の予測不能性が罪悪感に与える影響の検討	○法 弁 綿村 英一郎	大阪大学 大阪大学
P1006	大学生はボランティアにおけるネガティブな経験をいかに意味づけるか	○岩谷 祥太郎	立命館大学
P1007	「畏敬の念」が外集団不寛容性に与える影響	○高野 了太 野村 理朗	京都大学・日本学術振興会 京都大学
P1008	被害予測が嫌悪対象者に対する嫌悪度に及ぼす影響	○石井 拓真	Bar Second Room
P1009	自閉スペクトラム症と利他行動の関連における対象者の影響 定型発達群を対象にした予備的検討	○伊藤 萌 高岸 治人	吉祥寺クローバークリニック 玉川大学
P1010	Differentiating emotional responses to cognitive violations : Blamable agents and extreme harm differentially elicit horror and moral disgust	○Pamela Marie Taylor 内田 由紀子	京都大学 京都大学
P1011	地域共同体における景観情報に基づく社会関係資本の推定 Google Street Viewを活用した京都市内小学校区の検討	○打田 篤彦 箕浦 有希久 飯田 梨乃 大庭 義也 阪本 達哉 木村 元則 内田 由紀子 竹村 幸祐 一言 英文	京都大学 同志社大学 京都大学 京都大学 京都大学 京都大学 京都大学 滋賀大学 福岡大学
P1012	感情制御のために選択される他者の特徴についての検討	○平部 あずみ 安部 主晃 中島 健一郎	広島大学 広島大学 広島大学
P1013	地方回帰型移住における移住者の適応プロセスの検討 移住動機タイプ別による比較	○加藤 潤三 前村 奈央佳	立命館大学 神戸市外国語大学
P1014	被害・意図の有無が義憤に及ぼす影響	○小西 直喜 大坪 庸介	神戸大学・日本学術振興会 神戸大学

ポスター発表P10 第2日

P1015	家族樹形図療法における経年による認識の変化	○高山 智 中西 亮介	青山学芸心理 青山学芸心理
P1016	規範逸脱行為に対する大学生の怒り表出行動の検討 同伴者の有無と行為者の性別に着目して	○長澤 里絵	立正大学
P1017	友人間における感謝感情と負債感情が利益供与者への 向社会的行動に及ぼす影響	○吉野 優香 相川 充	筑波大学 筑波大学

P11 ポスター発表

第2日(11月10日) 11:30～13:00

9号館4階 942

在席責任時間 奇数番号: 11:40～12:25 偶数番号: 12:05～12:50

P1101	幼少期の生活環境が現在の先延ばしに及ぼす影響 夏休みの宿題を早くすませていた人は仕事が早いのか	○安達 未来 安達 啓介	大阪電気通信大学 神戸学院大学
P1102	オンライン上のコミュニケーションスキルの現実と理想の ギャップ	○石川 真 平田 乃美	上越教育大学 白鷗大学
P1103	自分を思いやることは自分に甘いことを意味するのか セルフコンパッションと自分に甘いことの類似点及び相 違点の検討	○宮川 裕基 新谷 優 谷口 淳一	追手門学院大学 法政大学 帝塚山大学
P1104	自己の多面性と一貫性が併存した重層性について	○田島 司	北九州市立大学
P1105	シャイネス・自己開示・ソーシャルサポートが被受容感 に及ぼす影響	○栗林 克匡	北星学園大学
P1106	ユーモアコーピングとWell-beingの関連における地域性 の検討 埼玉・東京・神奈川・大阪・兵庫を対象とした比較	○本郷 亜維子	放送大学
P1107	日本人女性が抱く自己像の年齢変化 20代から60代の傾向比較	○山田 雅子	埼玉女子短期大学
P1108	自己記述の内容に影響を与える要因 —書式と教示の効果—	○外山 みどり	学習院大学
P1109	親しい人への加害行為に対するゆるせなさ傾向に関す る検討	○沼田 真美	大妻女子大学
P1110	ファン心理と情動知能及び恋愛感情の関連性	○向居 暁	県立広島大学
P1111	愛着不安の高い人はいかにしてネットを荒らすのか 被排斥感の媒介効果の検討	○増井 啓太	追手門学院大学
P1112	喪失体験の適応プロセスにコーピングが与える影響に ついて —二重プロセスモデルの視点から—	○野間 了子 中島 健一郎	広島国際大学 広島大学
P1113	自己評価の高さが及ぼす適応的側面と不適応的側面 の検討 一般的信頼感との関連から	○間賀田 悠吾	大阪府立大学
P1114	関係流動性の異なる地域への移住に伴う適応 Just Minimal Approach による検討	○小楠 なつき 結城 雅樹	北海道大学 北海道大学
P1115	存在論的恐怖への対処に対する選択的反応の検討 —世代別の日本人データによる総合的考察—	○戸谷 彰宏 中島 健一郎	広島大学・日本学術振興会 広島大学
P1116	今朝、何食べた? : 朝食の摂取が大学生の学業成績に及ぼす影響	○野寺 綾	奈良県立大学

ポスター発表P11 第2日

P1117	低自己評価者はなぜ効果的な自己呈示を行えないのか？ —2つの自己評価目標の葛藤による自己制御資源の消費—	○谷口 淳一 宮川 裕基 相馬 敏彦	帝塚山大学 追手門学院大学 広島大学
P1118	顔の魅力度が主観的幸福感に及ぼす影響とその媒介要因の検討	○大藺 博記 奈須 桜子	鹿児島大学 (株)ビーザ・ワン
P1119	良性・悪性妬み傾向と自尊感情，他者軽視傾向の関係	○稲垣 勉 澄川 采加	鹿児島大学 鹿児島大学
P1120	Big Fiveパーソナリティ特性と向社会的行動の関連 都市規模ごとに着目して	○吉野 伸哉 小塩 真司	早稲田大学 早稲田大学

P12 ポスター発表

第2日(11月10日) 11:30～13:00

9号館4階 943

在席責任時間 奇数番号: 11:40～12:25 偶数番号: 12:05～12:50

P1201	情報量の増加は賭けを促進するか	○村上 幸史	神戸山手大学
P1202	なぜ援助者に利己的動機を推測するのか 潜行性決定論に基づく動機推測	○山本 佳祐 池上 知子	大阪市立大学 大阪市立大学
P1203	共感の正確さに体系的思考力が及ぼす影響	○矢澤 順根 古川 善也 中島 健一郎	広島大学 愛媛大学 広島大学
P1204	ロボットに対する心の知覚の2次元構造と利用意図 介護場面におけるコミュニケーションロボットの利用を題材とした検討	○谷辺 哲史 膳場 百合子 唐沢 かおり	東京大学・日本学術振興会 早稲田大学 東京大学
P1205	経済状況が子どもに対する親の投資に及ぼす影響 生活史理論にもとづく検討	○樋口 収 新井田 恵美	明治大学 東洋大学
P1206	上昇, 下降する価格情報と未来の価格予測: 文化間の比較検討	○野田 理世 Joanna Roszak	金城学院大学 University of Social Sciences and Humanities
P1207	スマートフォン操作時の姿勢が潜在的自尊心に及ぼす影響 顕在的自尊心の調整効果の検討	○小島 弥生	埼玉学園大学
P1208	身体的温かさの感覚が自己と他者の理解の程度の過大視に与える影響	○工藤 恵理子	東京女子大学
P1209	道徳判断に対するモラルライセンシング効果の影響	○古川 善也	愛媛大学
P1210	時間的展望が叡智と生活満足度に及ぼす効果 日本版時間的展望バランス尺度 (BTPS-J) の開発に基づく検討	○楠見 孝 西川 一二 野村 信威 Jeffrey Dean Webster	京都大学 京都大学 明治学院大学 Langara College
P1211	スマートフォンに関する思考の抑制が授業の理解に与える影響	○服部 陽介	京都先端科学大学
P1212	学業成功場面における原因帰属に認知的方略が及ぼす影響	○宮前 奈央子 清水 裕士 中島 健一郎	広島大学 関西学院大学 広島大学
P1213	社会的迷惑行為を認知した際の感情状態の調査	○佐藤 洋大 荒井 崇史 阿部 恒之 唐沢 穰	名古屋大学 東北大学 東北大学 名古屋大学
P1214	道徳判断におけるシステム脅威とナショナリズムの影響	○朴 ゴウン 唐沢 穰	名古屋大学 名古屋大学
P1215	時間的距離感が未来の自己のポジティブさの知覚に及ぼす影響	○齋木 彩 田中 知恵	(株)マクロミル 明治学院大学
P1216	ナース服の色が女性看護師に対する印象に及ぼす影響	○石井 国雄 田戸岡 好香	清泉女学院大学 高崎経済大学

ポスター発表P12 第2日

P1217	類似性知覚が他者の意図推測方略に及ぼす影響 Ames（2004, study 1）の追試	○藤島 喜嗣 新井 美沙希	昭和女子大学 昭和女子大学
P1218	熟慮－実行マインドセットが確証的な情報探索に及ぼす影響（2）	○松崎 圭佑 沼崎 誠	首都大学東京 首都大学東京
P1219	顕在的・潜在的自尊心の不一致と集団主義傾向の関連	○村上 史朗	奈良大学
P1220	ピンク服の着用が自己認知と他者認知に及ぼす効果	○埴田 健司	東京未来大学

発表者索引

(太数字は責任発表者)

A		秋山 学	WS08	稲葉 美里	O1502 P0316
Aoyagi, Keitaro	O1503	鮑戸 弘	O0401 O0402 O0403	稲増 一憲	WS09 O2201 O2205
B		浅井 暢子	O1704		P0510
Brown, Christina		浅川 雅美	P0808	犬飼 佳吾	O1803
	P0317	浅野 孝平	O1302	今井 葉子	P0407
C		浅野 悟史	O1804	今川 真治	P0113
Carola, Hommerich		浅野 良輔	O0803 O1401 P0218	今城 周造	P0109
	O2401 O2404		P0403 P0504	今城 志保	O2502 P0617
H		安達 啓介	P1101	岩井 阿礼	P0819
Handron, Caitie	O0101	安達 菜穂子	O0202 P0515	岩田 光将	WS08
Hübner, Gundula		足立 にか	P0517	岩谷 舟真	P0617
	O0202	安達 未来	P1101	岩谷 祥太郎	P1006
K		安部 主晃	P1012	う	
Kawabata, Yoshito		安部 健太	P0809	上市 秀雄	O1403
	P0508	阿部 晋吾	P0207	植阪 友理	WS07
L		阿部 恒之	P1213	上島 淳史	O2301
Levine, Timothy		阿部 修士	O1302	上田 仁	P0204
	O1602	天野 淳	P0803	上原 俊介	P0609
Liu, James	O0603	雨宮 有里	WS07 O2103	上淵 寿	P0603
M		荒井 崇史	P1213	宇佐美 まゆみ	P0104
Markus, Hazel	O0101	新井 美沙希	P1217	宇宿 公紀	P0114
Min, May	O0601	新井 洋輔	P0611	打田 篤彦	P1011
N		有野 雄大	P0806 P0807	内田 由紀子	O1804 O1901 O1902
Nakayama, Masataka		有馬 明恵	P0702 P0703 P0704		P0414 P1010 P1011
	O1102	安藤 香織	O0202	梅谷 凌平	P0314
Norasakkunkit, Vinai	P0406	安念 保昌	P0306	浦 光博	WS01 P0117
O		い		浦山 郁	O1203
Onuki, Mayuko	O1503	李 受珉	P0815	え	
R		李 光鎬	P0712 P0713	遠藤 健治	P0610
Roszak, Joanna	P1206	李 津娥	P0712 P0713	遠藤 忠	P0816
S		飯田 梨乃	P1011	お	
Serota, Kim	O1602	飯塚 優乃	P0309	大石 繁宏	O1103
T		井梅 由美子	P0119	大久保 慧悟	WS07 O2103 O2505
Takasaki, Yoshito		五十嵐 祐	O1703 P0315 P0918	大久保 暢俊	P0811 P0812 P0813
	O1503	池内 裕美	O2003	大澤 英昭	O1201
Tam, Kim-Pong	O0202	池上 知子	P0105 P0515 P0904	大須 晶子	P0806 P0807
Taylor, Pamela	P1010	池田 功毅	P1202	大藺 博記	P1118
U		池田 利基	WS09	太田 仁	P0602
Uchida, Aya	O1102	池田 浩	O0701	大塚 彩美	P0420
Uchida, Yukiko	O1102	伊崎 翼	WS03 O2004	大槻 久	O1501
V		石井 国雄	P0201	大坪 寛子	P0720
Vrij, Aldert	P0102	石井 敬子	WS06 P0914 P1216	大坪 庸介	P1014
W		石井 拓真	O1103 P0416	大戸 朋子	P0215
Wang, Lina	O0601	石井 辰典	P0608	大友 章司	O1201 O2104
Webster, Jeffrey	P1210	石井 良子	O0602	大西 彩子	P0508
X		石岡 良子	P0519	大沼 進	O0202 O1201 O2303
Xu, Wenzhen	O0601	石川 真	P1102		O2401 O2404
Y		石黒 格	P0202	大庭 義也	P1011
Young, Maia	O0102	石田 正浩	P0607	大橋 恵	P0119
あ		石橋 加帆	P0103	岡 隆	P0804 P0816
相川 充	P0101 P1017	石原 綾華	P0511	岡野 雅雄	P0808
相羽 美幸	P0518	磯部 智加衣	P0310	小川 景子	P0201
青木 俊明	O0901 O0902	板山 昂	O0903	荻原 祐二	P0414
青陽 千果	P0213	市村 美帆	P0611	小楠 なつき	P1114
秋田 沙也加	P0615	伊藤 健一	P0403	奥田 昇	O1804
秋本 陽子	O0801	伊藤 健彦	O1603	小口 孝司	O2504
		伊藤 真利子	O1501	奥山 新斗	O0103
		伊藤 実佐子	P0806 P0807	尾崎 拓	P0613
		伊藤 萌	P1009	尾崎 由佳	WS07 O2103 O2505
		稲垣 勉	WS07 P1119		P0620

発表者索引

小塩 真司 P0619 P1120
 小野間 統子 P0417
 小幡 直弘 **P0118**
 か
 笠原 伊織 **P0104**
 片桐 恵子 **O0303**
 片桐 諒子 **P0305**
 片平 健太郎 WS09
 加藤 潤三 **P1013**
 加藤 尚吾 P0114
 加藤 聖子 **P0506**
 加藤 由樹 P0114
 金子 迪大 **P0620**
 金政 祐司 **O0803** P0218
 上瀬 由美子 **O1402**
 亀田 達也 O1501 O1803 O2301
 O2302
 唐沢 かおり WS01 O1801 P0415
 P0905 P1204
 唐沢 穰 P0104 P0406 P1213
 P1214 SY01
 河井 大介 P0709
 川上 正浩 P0912 P0913 **P1001**
 P1002
 川崎 昌 WS06
 川嶋 伸佳 **P0512**
 川杉 桂太 P0803
 川角 公乃 **P0505**
 川端 美樹 **P0402**
 き
 木川 智美 **P0109**
 菊地 史倫 P0417
 菊地 学 P0915 **P0916** P0917
 木田 千裕 **P0904**
 北折 充隆 **P0501**
 北梶 陽子 O1502 **P0316**
 北小屋 裕 O2405
 北村 智 **P0709**
 北村 英哉 **O0702**
 鬼頭 美江 **P0216**
 木下 雅博 P0508
 金 恵璘 **O1803**
 木村 邦博 WS04
 木村 拓真 O0303
 木村 昌紀 O2405 P0404
 木村 元則 P1011
 清末 有紀 **P0509**
 吉良 文夫 **O0401** O0403
 桐生 正幸 P0103
 く
 釘原 直樹 **P0606**
 九島 紀子 **P0618**
 楠見 孝 **P1210**
 工藤 恵理子 **P1208**
 工藤 泰幸 WS01
 久保 昂大 **P0214**
 熊井 優日 **P0319**
 栗田 季佳 P0706
 栗原 俊介 **O0403**
 栗林 克匡 **P1105**

久禮 まゆ **P0604**
 黒川 雅幸 P0502 **P0701**
 黒田 起吏 **O1501**
 け
 ケイン 聡一 **P0605**
 こ
 胡 金生 P0404
 小池 はるか **P1003**
 神山 貴弥 P0604
 小久保 みどり **O2002**
 小島 弥生 **P1207**
 小城 英子 **P0912** P0913 P1001
 P1002
 小平 英志 O0802
 後藤 崇志 **P0614**
 小西 達也 P0502 P0701
 小西 直喜 **P1014**
 小浜 駿 **P0514**
 小濱 祥子 O2205
 小林 彩乃 **P0513**
 小林 清香 WS08
 小林 知博 **P0919**
 小林 哲郎 **O0201**
 小林 梨紗 O2402
 小林 亮太 **O1905**
 古村 健太郎 O0803 **P0218**
 小森 めぐみ O1002 P0906 **P0907**
 P0908
 近藤 克則 O0802
 近藤 将人 **P0209**
 さ
 齋木 彩 **P1215**
 齋木 潤 WS05
 齊藤 和範 WS08
 酒井 拓人 **P0107**
 阪上 雅昭 WS05
 坂田 桐子 P0311 P0506 **P0616**
 坂田 浩之 P0912 **P0913**
 坂元 章 P0714
 坂本 真士 P0111
 阪本 達哉 P1011
 佐久間 勲 **P0302**
 笹川 修 O0802
 佐々木 裕子 WS06
 佐藤 和成 **O2404**
 佐藤 浩輔 O1101
 佐藤 剛介 O1702 **P0405**
 佐藤 裕子 O2502
 佐藤 洋大 **P1213**
 讃井 知 **O1403**
 佐名 龍太 **P0918**
 澤田 昂大 **O1703**
 し
 塩谷 尚正 **O2405**
 潮村 公弘 WS06
 鹿内 学 WS05
 志岐 裕子 P0702 **P0703** P0704
 静間 健人 O1203
 澁澤 茉莉亜 P0205
 島井 哲志 O2403

島田 貴仁 WS08
 清水 裕士 WS09 **O0203** O1301
 P0320 P1212
 志水 裕美 **O1301**
 清水 真世 **P0810**
 下田 俊介 **O2101**
 下田 麻衣 O2101
 寿 秋露 **O0501** O0502 O0503
 白井 美穂 **P0801**
 白岩 祐子 **P0415**
 す
 菅原 育子 **P0519**
 菅原 優花 **O0901**
 杉浦 淳吉 O0202
 杉山 佳生 P0214
 鈴木 啓太 **P0507**
 鈴木 万希枝 **P0711**
 鈴木 美祐 P0609
 鈴木 雄大 **P0111**
 澄川 采加 P1119
 須山 巨基 **O1101**
 せ
 膳場 百合子 **O0102** P1204
 そ
 相馬 敏彦 O1001 **O2305** P0203
 P0310 P1117
 P0518
 袖山 紀子
 た
 ターン 有加里ジェシカ **O1801**
 田井 光春 WS01
 大工 泰裕 **O1602**
 高 史明 WS07 O2103
 高井 次郎 O0601
 高井 範子 **P0503**
 高木 彩 **P0906** P0907 P0908
 高木 浩人 **P0607**
 高岸 治人 O0501 O0502 **O0503**
 P1009
 高田 治樹 **P0915** P0916 P0917
 高野 了太 **P1007**
 高橋 晶 P0518
 高橋 徹 P0306
 高橋 尚也 **O2402**
 高橋 伸幸 P0304 P0307
 高林 久美子 **P0818**
 高松 礼奈 **O0601**
 高山 智 **P1015**
 高山 緑 P0519
 鷹阪 龍太 P0811 **P0812** P0813
 竹内 昌治 O2204
 竹澤 正哲 O1805 O2203 O2304
 武田 美亜 P0906 P0907 **P0908**
 武田 裕司 O0701
 竹橋 洋毅 WS07 **O1303** O2103
 O2403 O2505 P0409
 竹部 成崇 **O1701**
 竹村 和久 **P0608** P0803
 竹村 幸祐 WS05 O0203 O1804
 O2001 P1011
 O2205
 多湖 淳

田崎 勝也 WS04
 田島 祥 P0714 **P0717**
 田島 司 **P1104**
 太刀川 弘和 P0518
 舘石 和香葉 **P0304**
 田戸岡 好香 **P0914** P1216
 田中 皓介 **P0814**
 田中 咲野 P0802
 田中 知恵 **O1002** O1601 P1215
 田中 大貴 O0503
 田中 陽子 WS08
 田中 陽平 **O2501**
 田中 里奈 **P0409**
 田中 棕也 **O2102**
 谷口 淳一 P1103 **P1117**
 谷田 林士 **P0206** P0816
 谷辺 哲史 **P1204**
 太幡 直也 **P0102**
 玉井 颯一 O1401 P0504
 玉水 克明 **P0117**
 玉宮 義之 **P0205**
 田村 誠 P0407
 田村 美恵 **P0911**
 垂澤 由美子 **P0303**
 ち
 鄭 姝 P0714
 千田 国広 P0114
 陳 佳玉 **P0315**
 陳 晗 **P0115**
 つ
 塚常 健太 P0215
 塚本 早織 **P0317**
 辻 大介 P0709
 辻 啓人 **P0416**
 土田 修平 **O1805**
 土田 昭司 **O1203**
 土屋 耕治 P0318
 津村 健太 **O0703**
 て
 出口 拓彦 **O1604**
 寺垣内 雅子 **P0113**
 寺口 司 O0302
 寺本 水羽 P0714
 と
 寶 雪 O2102 P0115
 藤後 悦子 P0119
 外島 裕 WS06
 苔米地 飛 **P0905**
 友野 貴之 **O1605**
 戸谷 彰宏 **P1115**
 外山 みどり **P1108**
 豊沢 純子 O1303 **O2403**
 な
 内藤 碧 O1803 **O2302**
 中井 彩香 **P0909**
 中井 隆介 O1302
 中尾 敬 O1905
 中川 一史 P0511
 中越 みずき **O2201**
 長澤 里絵 **P1016**

中島 健一郎 O1701 P0113 P0605
 P0815 P1012 P1112
 P1115 P1203 P1212
O2203
 P0502 P0701
 P1015
 P0203
O2001
 WS03
 P0510 **P0805**
P0112
 O0802
P0706
 O2204
P0903
 O0301 **O1202** P0613
O1901 O1902
P0419
 P1118
 P0420
 WS03 SY01
 に
 新井田 恵美 P1205
 新井田 統 P0215
 新谷 優 **O0101** P1103
 西川 一二 P1210
 西田 公昭 WS08 P0602 SY01
 仁科 国之 O0501 O0502 **O1802**
 西村 太志 **P0203**
 ぬ
 沼崎 誠 P0909 P1218
 沼田 真美 **P1109**
 の
 野田 夏希 **P0901**
 野田 理世 **P1206**
 野寺 綾 **P1116**
 野間 了子 **P1112**
 野村 小百合 P0206
 野村 信威 P1210
 野村 浩子 WS06
 野村 理朗 P0620 P1007
 は
 芳賀 道匡 **O0802**
 朴 ゴウン **P1214**
 O1801
 橋本 剛明 **O0603** O1702 P0319
 橋本 博文 **P0619**
 橋本 泰央 P0617
 長谷川 明紀 **P0719**
 長谷川 孝治 P1001 **P1002**
 畑中 美穂 **P0311**
 服部 典利子 **P1211**
 服部 陽介 **P1220**
 埴田 健司 P0407
 馬場 健司 O2104
 濱口 郁枝 WS05
 濱田 大佐 **P0308**
 早坂 太志 **P0408**
 林 幸史 O2305
 原口 恭彦 **P0318**
 原田 知佳

ひ
 樋口 収 **P1205**
 樋口 浩一 **P0707**
 樋口 匡貴 WS02 O1904 **P0401**
 一言 英文 P0403 P1011
O2204
 日比野 愛子 WS02 **P0217**
 平石 界 WS09 **P0116**
 平川 真 P1102
 平田 乃美 **P1012**
 平部 あずみ O1201 O2303
 広瀬 幸雄 WS04 **O2202**
 広田 すみれ P0614
 廣野 優一郎
 ふ
 福島 治 **O2105**
 福島 慎太郎 **O1804**
 福地 莉歩 P0206
 福林 直 **P0802**
 藤井 達也 P0702 P0703 **P0704**
 藤川 翔子 **P0612**
 藤島 喜嗣 WS02 **P1217**
 藤村 直子 O2502
 藤本 学 **O2503**
 古川 善也 P0310 P1203 **P1209**
 古里 由香里 P0719
 古谷 嘉一郎 P0203 **P0211**
 古橋 麻衣 O2204
 古山 宣洋 O1605
 ほ
 法 弁 **P1005**
 細馬 宏通 P0614
 堀田 彩 O2305
 堀 遼太郎 **O1601**
 堀内 由樹子 P0714
 堀江 宗正 P0415
 堀川 佑惟 **P0804**
 堀毛 一也 **P0106**
 堀毛 裕子 P0106
 本郷 亜維子 **P1106**
 本庄 勝 P0502 P0701
 本多ハワード 素子 **P0615**
 本間 祥吾 **O2304**
 ま
 馬 萌 P0616
 前浦 菜央 **O1902**
 前田 楓 **O1702** P0319
 前田 洋枝 **P0413**
 前田 友吾 **O1903**
 前村 奈央佳 P1013
 間賀田 悠吾 **P1113**
 牧野 幸志 **P0110**
 牧野 遼作 O1605
 正木 郁太郎 **O2005** P0617
 正木 誠子 **P0708**
 真島 理恵 **P0307**
 増井 啓太 **P1111**
 増田 真也 WS04 **P0705**
 増田 達矢 P0420
 増田 直紀 O2302
 増富 祐司 P0407

発表者索引

松井 豊 SY01
 松浦 均 P0204
 松尾 朗子 O0702 **P0406**
 松尾 由美 **P0714**
 松木 祐馬 **P0301**
 松崎 圭佑 **P1218**
 松田 哲也 O0503
 松田 昌史 **P0516**
 松田 光恵 **P0212**
 松永 昌宏 O0501 O0502 O0503
 み
 三浦 麻子 WS02 P0411 **P0510**
 P0805
 三島 浩路 **P0502** P0701
 三島 爽暉 **O1003**
 三嶋 博之 O1605
 水鳥 翔伍 **O2401** O2404
 水野 一成 **O0402**
 水野 邦夫 **P1004**
 水野 景子 **P0320**
 箕浦 有希久 P1011
 三船 恒裕 O1802
 宮川 えりか **O2504**
 宮川 裕基 **P1103** P1117
 宮崎 弦太 **P0210**
 宮谷 真人 O1905
 宮前 奈央子 **P1212**
 む
 向居 暁 **P1110**
 村上 幸史 **P1201**
 村上 始 P0803
 村上 史朗 **P1219**
 村田 光二 WS07

村本 由紀子 P0507 P0617
 村山 綾 **P0411**
 村山 憲男 P0816
 も
 毛 新華 **P0404**
 元吉 忠寛 **P0710**
 森 久美子 **P0313**
 森 康浩 **P0418**
 森泉 哲 **P0410**
 森永 康子 P0509
 や
 矢澤 順根 **P1203**
 ハッ塚 一郎 **P0715**
 柳澤 邦昭 **O1302**
 山内 香奈 **P0417**
 山岡 重行 **P0208**
 山縣 芽生 **O0302**
 山川 樹 P0111
 山岸 俊男 O0603
 山口 奈緒美 **P0601**
 山口 裕幸 WS03
 山崎 瑞紀 **P0412**
 山崎 喜比古 O0802
 山下 玲子 P0702 P0703 P0704
 山田 一成 WS04 P0811 P0812
P0813
 山田 順子 O0501 **O0502** O0503
 P0216
 山田 純加 **P0716**
 山田 雅子 **P1107**
 山本 晶友 **O1904**
 山本 佳奈 **P0105**
 山本 佳祐 **P1202**

山本 琢俣 **P0603**
 山本 仁志 P0314
 楊 政達 P0608
 ゆ
 結城 雅樹 O0103 O1903 P1114
 行岡 秀和 P0503
 尹 成秀 P0915 P0916 **P0917**
 よ
 横井 良典 **O0301**
 横山 実紀 O1201 **O2303**
 吉澤 寛之 **O1401** P0504
 吉田 綾乃 **P0902**
 吉田 琢哉 O1401 **P0504**
 吉田 俊和 O1401 P0504
 吉野 伸哉 **P1120**
 吉野 ゆい P0401
 吉野 優香 **P1017**
 依田 尚也 P0505
 米山 暁夫 P0502 P0701
 り
 李 之林 P0608
 梁 庭昌 **O1001**
 林 萍萍 **P0108**
 わ
 脇本 竜太郎 **P0817**
 鷺尾 寛子 P0814
 渡部 麻美 **P0101**
 渡邊 克巳 O0602
 渡邊 聡 P0413
 渡邊 寛 **P0718**
 渡辺 藍丸 **P0803**
 綿貫 咲穂 **P0910**
 綿村 英一郎 O0302 P0606 P1005

日本社会心理学会第 60 回大会 賛助団体 御芳名

【広告・展示】

株式会社日本能率協会総合研究所

株式会社北大路書房

株式会社ナカニシヤ出版

株式会社講談社

株式会社北樹出版

株式会社誠信書房

株式会社ちとせプレス

株式会社有斐閣

教育情報出版

株式会社テキスト

株式会社クロス・マーケティング

楽天インサイト株式会社

アイブリッジ株式会社

福村出版株式会社

(敬称略)

大会を開催するにあたり、上記各企業・団体より多大なご支援をいただきました。
ここにその御芳名を記して、心から感謝の意を表します。

2019 年 10 月

日本社会心理学会第 60 回大会準備委員会



日本社会心理学会第 60 回大会 準備委員会

委員長 西田 公昭
事務局長 高橋 尚也

委員 上瀬 由美子
高比良 美詠子
古屋 健
八木 善彦
笠置 遊
下田(小林)麻衣
長澤 里絵
九島 紀子

ロゴデザイン 宮本佳子(追手門学院大学)

日本社会心理学会第 60 回大会プログラム

発行日 2019 年 10 月 9 日
発行者 〒141-8602 東京都品川区大崎 4-2-16
立正大学心理学部
日本社会心理学会第 60 回大会準備委員会